基盤科目

基礎演習・・・・ 2
基礎演習・・・・ 3
基礎演習・・・・ 4
基礎演習・・・・ 5
基礎演習・・・・ 6
基礎演習・・・・ 7
基礎演習・・・・ 8
基礎演習・・・・ 9
基礎演習・・・・ 10
基礎演習・・・・ 11
キリスト教概論・・・・ 12
キリスト教倫理・・・・ 13
憲法と法・・・・ 14
経済学・・・・ 15
社会学・・・・ 16
歴史学・・・・ 17
教育学・・・・ 18
心理学・・・・ 19
哲学・・・・ 20
環境論・・・・ 21
生物学・・・・ 22
化学・・・・ 23
統計学の基礎・・・・ 24
英語ⅠA（野呂）・・・・ 25
英語ⅠB（野呂）・・・・ 26
英語Ⅱ・・・・ 27
英語Ⅲ・・・・ 28
ドイツ語A(田中寿)・・・・ 29
ドイツ語B(田中岩)・・・・ 30
日本語表現法・・・・ 31
音楽・・・・ 32
スポーツ科学概論・・・・ 33
ｽﾎﾟｰﾂ科学実技A(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙA) ・・・・ 34
ｽﾎﾟｰﾂ科学実技Ｂ(ウォーキング) ・・・・ 35
ｽﾎﾟｰﾂ科学実技C(ｼｰｶﾔｯｸ) ・・・・ 36
ｽﾎﾟｰﾂ科学実技Ｄ(スクーバーダイビング) ・・・・ 37
ｽﾎﾟｰﾂ科学実技Ｅ(スノースポーツ) ・・・・ 38
ｽﾎﾟｰﾂ科学実技Ｆ(バスケットボールＢ) ・・・・ 39
人間関係論・・・・ 40
社会生活とマナー・・・・ 41
情報処理・・・・ 42
海外研修・・・・ 43

科目名	基　礎　演　習	科目コード	N10001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	大瀬　富士子		授業形態	講義	単独	

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～10名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査・分析し、論理的に考察して、その経過ならびに結果を自らの言葉で表現する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献などを調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し 発表できる。 2. グループ討議で、各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で、自分の意見を表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	授業の進め方	自己紹介、授業の進め方、大学生活	
第2回	ノートの取り方	資料の整理方法について	
第3回	課題を探そう	グループで議論して課題を検討	
第4回	テキストの読み方と要約の仕方	テキストの要約の発表	
第5回	レポートの書き方	レポート作成について	
第6回	文献の探し方	新聞やインターネット、図書館を利用	
第7回	文献の探し方	図書館を利用	
第8回	資料収集と要約	文献・資料の探索と収集整理	
第9回	資料収集と要約	文献・資料の探索と収集整理	
第10回	レポート作成	各グループでの意見交換し、各自がレポート作成	
第11回	レポート作成	レポート作成	
第12回	プレゼンテーション資料作成	効果的な資料作成、パワーポイントで作成	
第13回	プレゼンテーション、質疑応答	各グループがプレゼンテーション、それに対する質疑応答	
第14回	プレゼンテーション、質疑応答	各グループがプレゼンテーション、それに対する質疑応答	
第15回	まとめ	学習内容の振り返り	

評価方法及び評価基準	毎回の発表と討論50%、スライドとレポート30%、応答20%などで総合的に判断する。
教材教科書参考書	教材適宜、教科書は使用しない。
留意点	課題については各自単独で調べてくること。「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目　コード	N10002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	高田　まり子		授業 形態	講義		単独

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する姿勢を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、レポートを作成し、発 表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	基礎演習の進め方・メンバーの役割・学習資料の整理等について	自己紹介の意味、討議法の基礎知識、講義ノートの取り方(先輩のポートフォリオの紹介等）、大学生活Q&A	学生便覧・シラバス・参考書持参
第2回	テキストや論文の読み方	大学で読む文章、文章を読む姿勢(批判的の読む）、場面に応じた文章の読み方（予習・復習等）、読み方のテクニックについて	
第3回	レポートの書き方	レポートとは(主張と根拠・3部構成、先行研究の活用、形式、参考文献の書き方）、レポート提出のマナー	
第4回	資料の探し方	本、雑誌論文、新聞記事、統計資料、インターネット上の情報の利用、大学図書館の炉用方法	
第5回	大学図書館の使い方	自己の興味関心のある文献を探す	
第6回	検索した文献をレポートにまとめる	検索した文献を読み、動機・文献の要約・学び等をレポートする。Wordでレポートを作成。	
第7回	各自のレポートの発表	発表の準備・発表のポイント、聞き手の心得	
第8回	グループ毎にテーマを決定し、調べ、発表	テーマ決定のための意見j交換、文献検索、文献抄読、レポート、発表資料作成、	
第9回	グループ毎にテーマを決定し、調べ、発表	テーマ決定のための意見j交換、文献検索、文献抄読、レポート、発表資料作成、	
第10回	グループ毎にテーマを決定し、調べ、発表	テーマ決定のための意見j交換、文献検索、文献抄読、レポート、発表資料作成、	
第11回	グループ毎にテーマを決定し、調べ、発表	テーマ決定のための意見j交換、文献検索、文献抄読、レポート、発表資料作成、	
第12回	パワーポイントの作成	プレゼンテーションの意味、効果的な資料作成のテクニック	
第13回	グループ毎にテーマについて発表	評価の視点を参考に発表を聞き、質問や意見交換を行う。	
第14回	グループ毎にテーマについて発表	評価の視点を参考に発表を聞き、質問や意見交換を行う。	
第15回	基礎演習全体の振り返り	自己の学びをレポートし、発表	

評価方法及び評価基準	積極的な学習の取り組み（５０％）、発表とレポート（３０％）、応答（２０％）など総合的に判断する。
教材教科書参考書	世界思想社編集部編：「大学生 学びのハンドブック」4訂版.世界思想社.2018（初回演習時までに必ず購入し、持参すること）
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目　コード	N10003	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	三　上　聖　治			授業 形態	講義	単独

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する姿勢を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、レポートを作成し、発 表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	学生便覧とシラバスから履修科目にランクをつけてみましょう。	自ら調べ意見を述べてディスカッションをする。	
第2回	弘前学院大学の学生が使える資源について調べてみましょう。	自ら資料を作成して、発表する。	
第3回	大学４年間で培う自分の能力を確認しましょう。	大学卒業までの目標を定め、意見を発表する。	
第4回	大学４年間での経費を計算してみましょう	それぞれの環境と経費を計算し発表する。	
第5回	姉妹校について調べてみましょう。	WEB検索でそれぞれ姉妹校を調べ、ディスカッションする。	
第6回	看護師資格取得に必要な知識、コースについて調べてみましょう。	看護師資格所得までのコースを調べ、大学での看護師資格の意義について、レポートを作成し、ディスカッションする。	
第7回	看護師についての法律を調べてみましょう。	WEBで関連する法律を調べ、レポートにまとめ、発表する。	
第8回	看護師ができることとできないことを調べてみましょう。	WEBや図書館で調べたことを発表する。	
第9回	医療職について調べてみましょう。	看護師が関連する医療職について調べ、発表する。	
第10回	日本語の論文を読んでみましょう。	学問のアーリィエクポージャを体験し、調べたことを発表する。	
第11回	日本語の論文からわからない用語を抜き出してみましょう	専門用語に触れ、調べてレポートにまとめ、発表する。	
第12回	外国語の論文を読んでみましょう。	外国語論文を読んで、現状を発表しあい、これから何が必要かを確認する。	
第13回	論文を読むための必要な知識をまとめてみましょう。	専門知識以外に必要なものを発表しあう。	
第14回	ヒロガク教養講話の内容をまとめてみましょう。	主題で感銘を受けた授業を発表しあい、客観的な評価をしてみる。	
第15回	コミュニケーション能力について語ってみましょう。	自分の意見を他人に分かるように伝えるために何が必要か確認する。	

評価方法及び評価基準	積極的な学習の取り組み、発表、応答の加算方式 積極的な学習の取り組み（５０％）、発表（３０％）、応答（２０％）
教材教科書参考書	教材適宜・教科書は使用しない。
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目コード	N10004	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	担当者名	矢嶋　和江			授業形態	講義		単独

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する姿勢を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、レポートを作成し、発 表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

回	区分	主題	授業計画（授業時間外の学修を含む）	備考
1	大学生の基礎	オリエンテーション 自己紹介	・演習の進め方 ・大学で何を学びたいのか	
2		大学生になるということ	・論文とレポートの違い ・学習と学問の違いは？	
3		資料収集の方法	・検索方法 ・著作権とは　著作権の侵害とはその範囲	
4		自己の課題を見出す	・課題を形にしよう	
5		課題の発表		意見交換
6	情報を掴み取る	新聞を読もう キーワードから情報収集	・関心のあるニュースからキーワードを拾い出す。 ・キーワードに関連したファクトを徹底的に調べる	
7				
8		論説を書く 小論文形式（600字）	・小論文の回し読み。批評を書く ・Ｇ内で討議	添削・修正
9				
10		発表	読む・書く・発言する　これらをルーブリックに沿って自己評価する	
11	読書をすること	読書の意味を知る	東北の文豪と作品を調べる	
12		弘前の文豪を訪ねる		学外見学
13		読書感想文を作成 ビブリオバトルについて	東北の文豪作品１冊を選んで、読み込む	
14		ビブリオバトル	発表する（5分）&討論	
15	基礎演習のまとめ	大学生になるということ	・何が学べたのか、これからの大学生活にどう生かすのか意見交換 ・自己の課題到達方法を含めて、レポート（2000～3000字内）提出	

評価方法及び評価基準	積極的な学習の取り組み（４０％）、発表（２０％）、応答（２０％） グループ内での協調性、コミュニケーション力（20%） 学修評価法として、ルーブリックによる双方向評価を行う。
教材教科書参考書	特になし 　必要時適宜に提示する
留意点	「良い習慣は才能を超える」 　　倭国の使譯　あずみ一族の伝承より 日々、学ぶ（予習・復そして調べる）習慣が、無いものは、目標をすら達しえない。 この基礎演習で学問することの楽しさをわかって欲しい。

科目名	基　礎　演　習	科目コード	N10005	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	幸　山　靖　子		授業形態	講義	単独	

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生6～7名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	授業オリエンテーション	1. 自己紹介 2. 授業の目的や進め方について 3. スタディ・スキルズとは	シラバスと学生便覧を持参すること
第2回	ノート・テイキング	1. 講義を聴いて、重要なことをノートにとる 2. 講義ノートをもとに、興味・関心をもつ	
第3回	リーディングの基本スキル	1. テキストの種類に応じた読み方を身につける 2. 効率のよい読書の方法を身につける	
第4回	より深いリーディングのために	1. テキストを読んで、要約する技法を身につける 2. 読書を通じて、自分の意見や考えをもつ	
第5回	大学図書館における情報収集（図書館）	1. 情報収集の概念と必要性を学ぶ 2. 大学における図書館の利用方法を身につける	
第6回	インターネットによる情報収集	1. インターネットで、文献調査をする 2. インターネットで、事項調査をする	
第7回	情報の整理	1. インターネットで収集した情報を整理する 2. 文献リストを作成する	
第8回	アカデミック・ライティングの基本スキル１	1. レポートと感想文の違いを学ぶ 2. レポートを仕上げるまでに、どのような作業が必要なのかを学ぶ 3. レポートの構成を学ぶ	
第9回	アカデミック・ライティングの基本スキル２	レポートの発表およびディスカッション	
第10回	グループワーク：テーマの決定	1. 小グループに分かれて、テーマを決めて調査活動を行なう 2. テーマ決定から活動計画、調査活動、プレゼンテーションまでのプロセスを学ぶ	
第11回	グループワーク	テーマ決定から活動計画、調査活動、プレゼンテーションまでのプロセスを学ぶ	
第12回	プレゼンテーションの基本スキル	1. 他の人に分かって欲しいこと、伝えたいことを整理する 2. より良く分かって欲しいこと、伝えたいことを整理する	
第13回	プレゼンテーションの準備	グループワーク	
第14回	プレゼンテーションの実際１	グループごとにパワーポイントを用いて発表し、ディスカッションする。	
第15回	プレゼンテーションの実際２	グループごとにパワーポイントを用いて発表し、ディスカッションする。	

評価方法及び評価基準	学習内容(30%)、レポート(40%)、発表・討議(30%)を総合的に評価する。
教材教科書参考書	適宜紹介する。
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目コード	N10006	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	阿 部 智 美		授業形態	講義	単独	

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生6～7名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	自己紹介 基礎演習の目的や進め方について	シラバスと学生便覧を持参すること
第2回	ノートのとり方	大学でのノートのとり方の基本	
第3回	テキストの読み方	大学で読む文章 学術的な文章を読む	
第4回	レポートの書き方	レポートとは レポート作成の手順	
第5回	資料の探し方	資料とは インターネット上の情報の利用	
第6回	大学図書館の使い方	大学図書館とは 大学図書館での本の探し方	
第7回	レポートの作成	収集した資料を要約する Wordでレポートを作成する	
第8回	各自のレポートの発表	レポートの発表およびディスカッション	
第9回	ゼミ発表の仕方	ゼミ発表とは ゼミ発表の準備	
第10回	グループワーク	グループに分かれて、テーマを決める テーマ決定から発表までの進め方を決める	
第11回	グループワーク	グループで議論・作業する	
第12回	プレゼンテーションの準備	PowerPointで発表資料を作成する	
第13回	グループワーク	グループで議論・作業する	
第14回	各グループの発表	グループごとの発表およびディスカッション	
第15回	まとめ	基礎演習全体の振り返り	

評価方法及び評価基準	学習内容(30%)、レポート(40%)、発表・討議(30%)を総合的に評価する。
教材 教科書 参考書	世界思想社編集部編：「大学生 学びのハンドブック」4訂版.世界思想社.2018（初回演習時までに必ず購入し、持参すること）
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目コード	N10007	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	宇　田　宗　弘			授業形態	講義	単独

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーションと教科書の第0講	自己紹介、授業の進め方を理解する。シラバスと学生便覧について。教科書の第0講を輪読して要約する。	
第2回	要約の仕方について	教科書の第4講の要約の発表と要約の練習。	
第3回	ノートの取り方について	教科書の第1講と第2講の要約の発表と大学の授業についての議論。	
第4回	テキストの読み方と考える方法について	教科書の第3講と第5講の要約の発表。	
第5回	レポート・論文の書き方について	教科書の第3講と第5講の要約の発表。レポートと論文の違い。	
第6回	レポート・論文の書き方と資料の検索方法	教科書の第6講の要約の発表。Google, Google Scholar,医中誌、J-STAGEなど。	
第7回	学習テーマの決定とその発表	学習テーマを考える。テーマは学生同士が議論して決定する。	
第8回	資料の収集	各グループのテーマについて各自が資料を収集する。	
第9回	資料の収集とその要約	各自が資料を収集し、その資料を要約する。	
第10回	要約の発表	要約した内容を発表し、要約のやり方、要約した資料の内容について議論する。	
第11回	レポートの作成	各グループのテーマについて収集した資料をもとに、各自がレポートを作成して発表し、意見交換を行う。	
第12回	調査項目の再検討	グループで調査項目の再検討を行い、各自が資料を収集する。	
第13回	プレゼンテーション資料の作成	各グループのテーマについてのプレゼンテーション資料を作成する	
第14回	各グループのテーマについての発表・質疑応答	各グループのテーマについて各自がプレゼンテーションを行う。	
第15回	まとめ	学習内容の振り返り	

評価方法及び評価基準	学習内容（30%）、発表・討論（40%）、レポート（30%）を総合的に評価します。
教材 教科書 参考書	教科書：大学基礎講座　改増版　−充実した大学生活をおくるために−　藤田哲也　編著、北大路書房（必ず購入してください。） 上記以外の参考書については授業内で紹介します。
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目　コード	N10008	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	小野　綾			授業 形態	講義	単独

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する姿勢を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、レポートを作成し、発 表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	大学での勉強方法	①高校までとの違い　②時間管理のポイント　③予習・復習のポイント　④ノートのとり方　⑤パソコン使用簡単ガイド（資料配布）	はじめに全員の自己紹介
第2回	情報収集方法	①情報の質　②情報の源　③情報の見極め　④探求（様々な方法）　⑤情報の整理　⑥倫理的行動　⑥実際に図書館と情報処理室を使う	
第3回	文献について	①「文献」とは　②和文文献と英文文献　③大事な文献とはどのようなものか　④Finkの危機理論の原文に触れてみる	
第4回	「読む」時のポイント	①クリティカル・リーディングとは　②クリティカル・リーディングをやってみる	
第5回	レポートを「書く」１	①感想文・小論文からのステップアップ　②なんのためにレポートを書くのか　③何を求められているのかを知ること　④書き方　⑤書く準備（テーマを絞る）	
第6回	レポートを「書く」２	レポートを書くために必要な文献を持参する（第5回目で説明する） 実際にレポートを書いてみる（その１）：序論	手書きのみ
第7回	レポートを「書く」３	※レポートを書くために必要な文献を持参する 実際にレポートを書いてみる（その１）：本論	手書きのみ
第8回	レポートを「書く」４	実際にレポートを書いてみる（その２）：結論 （講義後の宿題：手書きのレポートをWord形式にして後日提出）	授業中手書きのみ 宿題はパソコンで
第9回	自分の意見を「伝える」、「意見交換」をする	①「伝える」ことの重要性　②意見を「聞く」　③ディスカッション好きになろう　④あのアニメキャラについてディスカッションする	
第10回	プレゼンテーション方法	①いろいろな方法について　②実際にPowerPointで禁煙広告ポスターを作ってみよう	教室のあと情報処理室に移動
第11回	プレゼンテーション準備　１	①テーマを決める（好きな物・事）　②全体像を考える　③設計する	自分で必要な資料を持参する
第12回	プレゼンテーション準備　２	プレゼンテーション資料作成	自分で必要な資料を持参する
第13回	プレゼンテーション実践（前半）	プレゼンテーションとディスカッション	
第14回	プレゼンテーション実践（後半）	プレゼンテーションとディスカッション	
第15回	物事を要約する	①要点のつかみかた　②制限内におさめる能力を発揮する「まとめ」　③相手に「え？それだけ？」「で？」と言わせない「まとめ」　④3行でまとめてみよう	

評価方法及び評価基準	レポート40% ディスカッション20% プレゼンテーション40% （それぞれの評価基準表を第1回目に配布する）
教材 教科書 参考書	使用しない 適宜資料を配布する
留意点	毎回シラバスを持参すること。 「基礎演習」・「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目　コード	N10009	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	齊藤　史恵			授業 形態	講義	単独

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する姿勢を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、レポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の目標や進め方について、大学で学ぶということはどういうことなのかを理解する。	学生便覧・シラバス・参考書持参
第2回	講義ノートの取り方	授業スタイルに合わせたノートのとり方を学ぶ。	
第3回	テキストや論文の読み方	大学で読む文章、文章を読む姿勢(批判的の読む）、場面に応じた文章の読み方（予習・復習等）	
第4回	要約の仕方	要約の手順、練習	
第5回	身近なことを調べる(学習資源の収集方法)	本、雑誌論文、新聞記事、統計資料、インターネット上の情報の利用、大学図書館の使い方など学習資源の収集方法	
第6回	身近なことを調べる(ブレーンストーミング方法)	ブレスト（ルール、順番ブレスト、質疑応答ブレスト）を用いて、論理的に考え、問題解決の道筋を明らかにしていく。	
第7回	身近なことを調べる(レポートの書き方)	レポート(主張と根拠・3部構成、先行研究の活用、形式、参考文献の書き方）について理解する。レポート提出のマナー、検索した文献を読み、動機・文献の要約・学び等をレポートする。Wordでレポートを作成。	
第8回	身近なことを調べる(パワーポイントの方法)	プレゼンテーションの意味、効果的な資料作成のテクニック	
第9回	パワーポイントによるプレゼンテーション	プレゼンテーション後、ディスカッションを行う	
第10回	レポート発表	各自レポートを発表し、ディスカッションを行う。	
第11回	グループ毎にテーマについてのディスカッション（KJ法）	各自のテーマに沿ったブレーンストーミングの実施を行う。	
第12回	グループ毎にテーマについてのディスカッション（グルーピング）	類似性や親和性ではなく、ラベルの持つ志でグルーピングする。情報の扱いを丁寧に、物事の本質を読みとる。	
第13回	グループ毎にテーマについて発表(図式化)	近い関係にあるグループを隣同士に並べて、一定の関連性を見出す。図解を土台に発想を発展させる。	
第14回	グループ毎にテーマについて発表(叙述化)	図解化をしてわかった事を、ストーリーとする。評価の視点を参考に発表を聞き、質問や意見交換を行う。	
第15回	リフレクション	自己を振り返り、課題を客観的に認識する自己の学びをレポートし、発表を行う。	

評価方法及び評価基準	発表３０％、レポート２０％、授業態度（出席、積極的な学習の取り組み）５０％を総合的に評価
教材教科書参考書	適宜紹介する。
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	基　礎　演　習	科目コード	N10010	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	菅　原　大　輔		授業形態	演習	単独	

授業の概要	「基礎演習」では、大学生として積極的に学習する態度を養い、自主的な学習能力の修得を目的とする。 1名の教員が学生7～8名を担当する小グループ演習であり、学生参加型学習である。教員の助言・指導のもとに、個々の学生が興味・関心のあるテーマを発表し、グループ全体のディスカッションを経て、グループテーマへ発展させる。そのテーマについて、各自が文献検索を行い、科学的に調査分析して、結果を自らの言葉で表現し、論理的に考察する。
到達目標	1. 各自がテーマを見つけて持ち寄り、グループで学習テーマを決めて、文献を調べ、互いに討論し、各自がレポートを作成し、発表できる。 2. グループ討議で各自が自らの考えを述べることができる。 3. 自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	授業の進め方	自己紹介および15コマ分の授業の進め方について	シラバスと学生便覧を持参
第2回	講義ノートの取り方	資料の整理方法について	
第3回	課題の決定①	グループでの課題決定、課題文献の調べ方について	グループ研究
第4回	文献の探し方	図書館の利用方法、新聞やインターネットの利用方法について	
第5回	課題の発表	課題の発表、レポート作成について	
第6回	レポートの作成および発表	レポート作成および途中経過の発表	
第7回	レポートの作成および発表	レポート作成および途中経過の発表	
第8回	プレゼンテーション（Aグループ）	パワーポイントを使用したプレゼンおよび質疑応答	
第9回	プレゼンテーション（Bグループ）	パワーポイントを使用したプレゼンおよび質疑応答	
第10回	課題の決定②	個人で課題を決定し、課題文献を調べる	個人研究
第11回	レポート作成および発表	レポート作成および途中経過の発表	
第12回	レポート作成および発表	レポート作成および途中経過の発表	
第13回	プレゼンテーション	パワーポイントを使用したプレゼンおよび質疑応答	
第14回	プレゼンテーション	パワーポイントを使用したプレゼンおよび質疑応答	
第15回	まとめ	基礎演習の振り返り	

評価方法及び評価基準	講義およびグループワークへの参加度（20%）、レポート作成（50%）、発表および討議（30%）を総合して評価する。
教材教科書参考書	資料は適宜紹介し、配布する。教科書は使用しない。
留意点	「基礎演習」および「ヒロガク教養講話」は全出席を原則とする。

科目名	キリスト教概論	科目コード	N11001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	楊　尚眞		授業形態	講義	単独	

授業の概要	キリスト教の本質を学び、理解することにおいて、その研究対象は、古代・中世・近世・現代のキリスト教の歴史、聖書・信条・キリスト教思想である。この科目授業において、イエス・キリストの生涯を中心にキリスト教の本質を学ぶ。
到達目標	キリスト教を学び、理解することを通して、本学の建学精神である「畏神愛人」という生き方を多面的に探求する。また、キリスト教信仰と文化を幅広く理解し、人間とは何なのかを一層深く理解する態度を養い、理解する主体である「自分」を内省する視点を獲得することを目標にしている。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	神の言葉である聖書	旧・新約聖書の構成、聖書の信憑性、聖書と啓示	
第2回	神の子イエス・キリスト①	イエスの時代的背景、イエスの福音宣教活動、イエスの説教、	
第3回	神の子イエス・キリスト②	イエスの奇跡の働き、イエスので教育、イエスの三つの役割、	
第4回	神の子イエス・キリスト③	貧しい者への関心、障がい者や病人に対する関心、	
第5回	神の子イエス・キリスト④	イエスの受難、復活、昇天、再臨	
第6回	キリストの神	神の存在、創造主である神、啓示の神、聖霊の神、	
第7回	神の霊である聖霊	聖霊の働き、聖霊と火のバプテスマと聖霊充満	
第8回	三位一体論	三位一体の神	
第9回	キリストの体なる教会	教会の誕生、教会の本質と特徴、教会の機能	
第10回	天国論と地獄論	旧・新約聖書と死後の世界、死後の世界である天国と地獄	
第11回	天使論と悪魔論	聖書と天使の存在と働き、聖書と悪魔の存在と働き	
第12回	キリスト教人間論	人間とは何か、人間と神との関係、人間の自己喪失と回復、原罪	
第13回	キリスト教信仰	信仰と救い、信仰生活、信仰の構成要素、知性、感情、意志、	
第14回	キリスト教礼拝	礼拝という言葉の意味、礼拝の本質、聖礼典	
第15回	まとめ	授業の総括	

評価方法及び評価基準	１．　期末試験　（25%）　２．講義への参加態度（25%）３．礼拝出席度（25%）４．礼拝感想文（25%）キリスト教についての基本的理解を示す試験問題を出し、キリスト教に関する一般知識を評価する。講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。
教材教科書参考書	１．キリスト教概説　（楊尚眞著）２．聖書　３．讃美歌21
留意点	１．礼拝出席　２．私語禁止、３．遅刻禁止　４．質問奨励

科目名	キリスト教倫理	科目コード	N11002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	楊　尚眞		授業形態	講義	単独	

授業の概要	キリスト教を学び理解することは単に知的認識にとどまらず、その人の考え方、生き方や態度に影響を及ぼす。聖書を通して神を知り神の真理を知ることは、人間側に全人格的な経験と関係を呼び起こし、神の意思に向けて決断を迫る生きた返答を生み出す。日常の人間関係の問題に目を向け、それらの諸問題に対してキリスト教的な思考と解答を生み出すことによって、創造主である神の前にて責任のある倫理的な生を生きることができる。 本科目授業では、聖書の教えに基づいて人間の実存的で普遍的な問題を捉え、キリスト教的な解答を追及すること試みる。
到達目標	神は、人間を自由な存在として創造し、人間は自由意思をもって生きる存在であるが、人間が神を知り、神を畏れ、歴史の中で働く生きた神との関係に入り、生活のあらゆる領域において倫理的な決断をすることを求める。本学の建学精神である「畏神愛人」の「畏神」は神に対しての関係的・経験的な知り方を意味する。「神を畏れることは、知恵の初め」　（箴言１：７）とあるように、この世のすべての問題解決への真の知恵である聖書的価値観を学ぶこと、さらに、学習者の思考形成、人間形成に寄与することを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	キリスト教の人間関係論	関係優先教訓、関係の法則と技術、関係法則の伝達方法	
第2回	キリスト教の自画像論	自己の回復、自画像と他者との関係、肯定的自画像形成	
第3回	キリスト教の人間理解論	人間の実存の理解、自分と他者の相違点の理解	
第4回	キリスト教の責任論	人間関係崩壊の原因、責任の法則と成熟なる関係	
第5回	キリスト教の憤慨管理論	憤慨の原因、憤慨の理解、憤慨の管理	
第6回	キリスト教の容赦論	心の傷と治癒、神の愛と治癒、赦しと人間関係回復	
第7回	キリスト教の友情論	友情と隣人愛、友情と賞賛、友情と自己犠牲、友情と苦難の克服	
第8回	キリスト教の対話論	対話の重要性、成熟な対話の学び、対話の法則	
第9回	キリスト教の傾聴論	傾聴の重要性、傾聴の方法	
第10回	キリスト教の親切論	イエスの親切心、親切心と隣人愛、親切心と成長	
第11回	キリスト教の激励論	激励と自己の超越、激励の意味、激励の原理	
第12回	キリスト教の葛藤克服論	葛藤問題の肯定的な面と否定的な面、葛藤問題克服の聖書的方法、	
第13回	キリスト教の賞賛論	賞賛の意味と目的、賞賛の技術、賞賛と人間関係	
第14回	キリスト教の関係回復論	人間関係回復の方法	
第15回	まとめ	授業の総括	

評価方法及び評価基準	１．　期末試験　（25%）２．講義への参加態度（25%）３．礼拝出席度（25%）４．礼拝感想文（25%）期末試験は講義で扱った問題に関して出され論述方式で答える。講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。
教材教科書参考書	１．聖書　２．讃美歌21
留意点	１．礼拝出席　２．私語禁止、３．遅刻禁止　４．質問奨励

科目名	憲法と法	科目コード	N11003	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	大野　拓哉		授業形態	講義	単独	

授業の概要	本講では、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。 具体的には、まず、民主主義の統治の基本原理を学び、その後、統治の機構としての「国民」やその代表者で構成される「国会」について学ぶ。「国会」に関しては、行政権が帰属する「内閣」との関係、司法権が帰属する「裁判所」との関係にも触れ、以て、三権分立の理解の一助とする。
到達目標	日本国憲法が近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとすることを目指す。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	統治の基本原理①	民主主義	
第2回	統治の基本原理②	「主権」概念の形成と展開	
第3回	統治の基本原理③	国民主権	
第4回	統治の機構Ⅰ	国民①～「国民」の要件	
第5回	統治の機構Ⅰ	国民②～「国民」の位置	
第6回	統治の機構Ⅰ	国民③～「国民」の権能	
第7回	統治の機構Ⅱ	国会①～国権の最高機関	
第8回	統治の機構Ⅱ	国会②～唯一の立法機関	
第9回	統治の機構Ⅱ	国会③～国会の構成	
第10回	統治の機構Ⅱ	国会④～国会の権能	
第11回	統治の機構Ⅱ	国会⑤～議院の権能	
第12回	統治の機構Ⅱ	国会⑥～議員の地位と特権	
第13回	統治の機構Ⅱ	国会⑦～国会と内閣の関係	
第14回	統治の機構Ⅱ	国会⑧～国会と裁判所の関係	
第15回	総括	まとめと振り返り	

評価方法及び評価基準	試験（前期試験）のみ。なお、再試験は実施しない。
教材教科書参考書	特に指定しない
留意点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと。

科目名	経　　済　　学	科目コード	N11004	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	福田　進治		授業形態	講義	単独	

授業の概要	近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に着けます。
到達目標	経済学の基本的課題、基本的概念、基本的主張を理解することを目指します。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	序　論	授業の目的、概要、方法について説明します。	
第2回	重商主義の時代	アダム・スミスの時代と生涯について学びます。	
第3回	市場メカニズム	アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。	
第4回	小さな政府	アダム・スミスの経済政策と夜警国家について学びます。	
第5回	産業革命の時代	リカードの時代と生涯について学びます。	
第6回	国際貿易の原理	リカードの国際貿易論と比較優位の概念について学びます。	
第7回	階級闘争の時代	マルクスの時代と生涯について学びます。	
第8回	資本主義の構造	マルクスの資本主義と剰余価値の把握について学びます。	
第9回	資本主義の歴史	マルクスの資本主義の歴史理論について学びます。	
第10回	ヴィクトリア時代	マーシャルの時代と生涯について学びます。	
第11回	市場経済の理論	マーシャルの需給均衡と市場経済の理論について学びます。	
第12回	大恐慌の時代	ケインズの時代と生涯について学びます。	
第13回	失業の原因	ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。	
第14回	福祉国家の形成	ケインズの経済政策と福祉国家の形成について学びます。	
第15回	まとめ	授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。	

評価方法及び評価基準	1）平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2）期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。
教材教科書参考書	（参考書）　八木紀一郎『経済思想』（第2版）日本経済新聞出版社、2011年
留意点	

科目名	社　会　学	科目コード	N11005	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	藤岡　真之		授業形態	講義	単独	

授業の概要	社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで気づかなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、自我、家族、セクシュアリティ、地域と都市、階級・階層、健康・医療など。
到達目標	・さまざまな水準の社会現象を、よりクリアーに理解できるようになる ・さまざまな水準の社会現象を、より深く理解できるようになる ・社会学の知識を用いて、現実の人間関係や社会現象を理解できるようになる

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会学とは何か（１）	社会科学と社会学	
第2回	社会学とは何か（１）	デュルケム『自殺論』の方法	
第3回	自我論（１）	自我とは何か、自己と他者	
第4回	自我論（２）	自己とコミュニケーション	
第5回	家族の社会学（１）	家族の類型と機能	
第6回	家族の社会学（１）	結婚の変化、出生率の推移、家族の変化	
第7回	ジェンダーとセクシュアリティ（１）	ジェンダー概念、仕事と家族をめぐる問題	
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ（２）	セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティ	
第9回	地域と都市の社会学（１）	都市とは何か、シカゴ学派の見方	
第10回	地域と都市の社会学（２）	コミュニティ、郊外化	
第11回	階級・階層の社会学（１）	社会的地位の測定、社会移動	
第12回	階級・階層の社会学（２）	産業化と階層構造の変化	
第13回	健康・医療の社会学（１）	健康の概念/疾病の概念	
第14回	健康・医療の社会学（２）	医療化、医原病、死と社会	
第15回	健康・医療の社会学（３）	薬害問題	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（15%）、試験（85%）。基本概念や用語の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出す。解答の論理性を重視して評価する。
教材教科書参考書	宇都宮京子編『よくわかる社会学［第2版］』ミネルヴァ書房
留意点	

科目名	歴　史　学	科目コード	N11006	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	齊藤　利男		授業形態	講義	単独	

授業の概要	（キーワード：海の道と海で結ばれる世界、「国境」を外してみる歴史、日本とアジア） 「海から見た歴史」の日本編。「周囲を海に囲まれたアジアの島国」日本は、実は「海の道」によってアジアの諸地域と結びつき、その結びつきを通じて歴史を歩んできました。渡来人がつくった弥生文化、北の海の交易民族アイヌ、「海の道」に支えられた平泉政権・平氏政権の栄華、アジアの大航海時代、貿易国家琉球王国、などなど。この授業では、近年注目を集めている「海の道」「海の世界」に目を向け、海から見た視点で、これまで見逃されてきた日本の歴史を考えます。
到達目標	（１）歴史において「海の道」「海に生きた人々」が果たした役割に気付き、国家や政治権力中心の歴史でない、日本の歴史が本来有していた豊かさと多様性について、考えることができるようになること。 （２）歴史を学ぶことを通じて、社会や人間に対する固定的でない見方・考え方ができるようになること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	本授業「海の日本史」のねらいと計画についての説明	講義形式
第2回	海で結ばれる世界、海を越えた交流	海が人々を隔てる障害でなく、結びつける媒介であったことを学	講義形式
第3回	古代国家と海の道	日本の古代国家が東アジア諸国との交流で形成されたことを学ぶ	講義形式
第4回	遣唐使・渤海使の道	古代律令国家の国際交流について学ぶ	講義形式
第5回	日宋貿易の開始と発展	日本社会の変革と活況をもたらした日宋貿易について学ぶ	講義形式
第6回	北の海の交易民族、アイヌ民族の誕生	アイヌ民族の知られざる実態とその強大な勢力について学ぶ	講義形式
第7回	海の道で支えられた平泉の栄華	海の道を通じた南北世界との交流で栄えた平泉の歴史を学ぶ	講義形式
第8回	平清盛、福原の夢	「開国」の政権平氏政権と「海の都」福原新都構想について学ぶ	講義形式
第9回	中国人海商とアジアの大航海時代	日宋貿易をになった中国人海商と貿易活動の実態を学ぶ	講義形式
第10回	フビライの世界戦略と蒙古襲来	「海の視点」から明らかになる「蒙古襲来」の実像を学ぶ	講義形式
第11回	明帝国と「日本国王」足利義満	明帝国の国家戦略と将軍足利義満の野望について学ぶ	講義形式
第12回	「倭寇」とは何か	中世の東シナ海に生きた国際人「倭寇」の実像を学ぶ	講義形式
第13回	貿易国家琉球王朝	独立琉球王国誕生の歴史を学び、沖縄のアイデンティティを知る	講義形式
第14回	大航海時代と日本	大航海時代の中で日本の占めた位置について学ぶ	講義形式
第15回	海の道で支えられた江戸時代の日本	江戸時代の日本を支えたのが「海の道」であったことを学ぶ	講義形式

評価方法及び評価基準	授業への参加度（３０％）、定期試験（７０％） 定期試験は、到達目標（１）（２）に対応して、目標に到達しているかを試す問題を出題する。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
教材教科書参考書	教科書は使用せず、適宜、プリント資料を配付し、それをもとに授業を進めます。
留意点	継続は力。まず、休まないで、授業を聞き続けることに力を入れてください。

科目名	教　育　学	科目コード	N11007	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	原　圭寛		授業形態	講義	単独	

授業の概要	本科目は，これまで教育学において考察の対象となってきた教育に関する原理的な問いについて，過去に教育及び教育学研究に携わった人々がどのように考えてきたのかについての講義を行う。また，履修者間でのディスカッションを通して，履修者自身にこれらの問題について考察してもらう。
到達目標	1) 教育及び教育学に関する基礎的知識を身につける。 2) 教育に関する問題について，多様な立場からの意見を踏まえたうえで自身の意見を持つことができ，それについて専門用語を用いつつ理論的に述べることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーション ・第6回までのディスカッションのグループ決め	初回欠席者は履修を認めないので注意すること
第2回	なぜみんな学校へ行くのか？	教育と学校教育／近代公教育制度の成立とその背景にある理念（思想）／近代教育思想における他律と自律／道具としての理性，効率化としての理性に対する批判［教科書第1章］	
第3回	学校は誰のためのものなのか？	三つの答え／「国民の教育権」対「国家の教育権」／新しい「公共性」のほうへ［教科書第2章］	
第4回	学校で何を学ぶのか／学んでしまうのか？	教室内の生活とかくれたカリキュラム／学校は無色透明でも中立でもない／権力への自発的な服従／学校化／教育に関する二つのパラドックス［教科書第3章］	
第5回	「子ども」とは何か？	子どもをどのような存在としてとらえるか／「小さな大人」としての子ども／子どもの発見／恵まれない子どもへのまなざしと幼稚園の誕生／「遊び」論の展開／子ども観と教育［教科書第4章］	
第6回	成熟するとはどのようなことか？	生物学的過程としての成熟／獲得的過程としての発達／発達・教育・学習／発達を乗り越える視座としての生成／成熟するとはどのようなことか？［教科書第5章］	
第7回	前半のまとめ・中間試験	第6回までの到達度の確認	試験欠席者は評価の対象とならないので注意すること
第8回	試験解説・小括	・第6回までの内容の復習 ・第13回までのディスカッションのグループ決め	
第9回	「役に立たないこと」を学ぶ意味とは何か？	「教養」とは何か？／前近代におけるリベラル・アーツ／近代以降のリベラル・アーツ／「知識」そのものか，「知識」を得る過程か？［教科書第6章］	
第10回	子どもにどうやって教えるのか？	教育を成立させる「手段・媒介」／「表象」に基づく教育／「経験」に基づく教育／現代教育学の動向と世界の実演／新教育運動の思想家・実践家たち［教科書第7章］	
第11回	学校教育は子どもの生とどのようにかかわるか？(1)	子どもの問いから考える／近代学校教育の成立と子どもの生活の変化／戦後教育改革と社会科［教科書第8章］	
第12回	学校教育は子どもの生とどのようにかかわるか？(2)	戦後の教育実践に学ぶ／現代の教育を考える／子どもの生に向き合うことでオルタナティヴを構想する［教科書第8章］	
第13回	子どもは何を学ぶのか？	学習指導要領と戦後／学力と産業化社会／生きる力とポスト産業化社会／そして子どもは何を学ぶのか？／ケアと教育の問い直し［教科書第9章］	
第14回	後半のまとめ・中間試験	第13回までの到達度の確認	試験欠席者は評価の対象とならないので注意すること
第15回	試験解説・総括	第13回までの内容の復習	

評価方法及び評価基準	1) 原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日に出席することが求められる。これに反した場合，評価は0点とする。 2) 評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・中間試験：50% ・期末試験：50% ・授業内の発言及びコメントシート：適宜加点
教材教科書参考書	教科書：古屋恵太編著．(2017).『教育の哲学・歴史』．学文社．ISBN: 978-4-7620-2612-6 参考書：眞壁宏幹編．(2016).『西洋教育思想史』．慶應義塾大学出版会．ISBN: 978-4-7664-2327-3
留意点	・上記に示した教科書の範囲を予習したうえで授業に出席すること。 ・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨み，自身の考えを積極的に発言すること。ディスカッションに積極的に参加していない場合，履修を辞退してもらう場合がある。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/授業関連/

科目名	心　理　学	科目コード	N11008	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	佐々木　正晴		授業形態	講義	単独	

授業の概要	人間行動の基礎課程である心の活動を探索する.心理学研究史を概観し，その意義，方法論を探り，看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ，脳と心の関係，感覚・知覚，欲求・行動の成り立ちを探る.学習・記憶，言語・思考，情動・動機づけ，発達・学習，パーソナリティ，対人関係・社会行動など，実験論文を通して，人間行動を総合的に考える
到達目標	1.基本概念と語句を理解すること 2.実験の方法と結果を予測する力をつけること 3.心の活動についてじぶんの答えを見つけること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	心理学の歴史と方法	心理学誕生の経緯、その方法の由来を知り、学問の成り立ちを考える	
第2回	心の活動の定義	心の活動を5種類に分け、それぞれ具体例を挙げ、心の活動を定義する	
第3回	感覚・知覚の世界：逆さに見える世界	逆さに見えるめがねをかけ、この実験の由来と意味を考える	
第4回	感覚・知覚の世界：初めて見る世界	一定の生活歴を経てから初めてこの世界を見た人たちの実例を見る	
第5回	記憶のメカニズム：記憶術名人の苦悩	記憶機能に関わる実験例を見、「記憶の名人」の苦悩について考える	
第6回	言語の成立と機能：言語機能障害	ことばをうまく話せないこどもたちに対する形成実験例を挙げる	
第7回	学習意欲の崩壊：ひきこもり	勇気，意欲，希望：学習意欲が失われる実験例について考える	
第8回	学習意欲の芽生え：挑戦する人たち	勇気，意欲，希望：学習意欲が成り立つ条件について考える	
第9回	情動、感性、動機：気持ちを変える	気持ちが変化したり、芽生えたり、それを示す実験例を挙げる	
第10回	発達、学習：未知の世界に喜ぶこどもたち	発達，学習，操作：働きかけると機能が変わる.実験の具体例	
第11回	性格・人格・行動：個性に悩む人たち	性格・人格・行動：性格検査，適性検査を実施し，自己を考える	
第12回	対人関係と社会：お金持ちの最適戦略	お金持ちになる戦略を巡る実験を見、人との関わりについて考える	
第13回	脳と心の関係性：大脳には心理機能の地図	大脳の心理機能地図、リハビリから脳と心の関係性について考える	
第14回	脳と心の関係性：脳損傷と機能形成	脳損傷者の機能形成臨床例から脳と心の関係性に着いて考える	
第15回	総括	心の活動について受講生ひとり一人が絵を描く	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，レポート50%．毎回の授業で小レポートを課する. 小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする．翌週提出する(自学)大きなレポートは，3回. テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めてレポートを書くこと

科目名	哲　学	科目コード	N11009	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	鎌田　学		授業形態	講義	単独	

授業の概要	現代倫理学で議論される「生命」、「幸福」、「正義」、「科学技術」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章化する力を養うための練習も行う。
到達目標	①広範な倫理的問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③やや難解な文章を読む力をつけること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	授業の目的、進め方	
第2回	「嘘も方便」は正しいか？	カントの倫理学説　（義務論）について	
第3回	サバイバル・ロッタリー	生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？	
第4回	「最大多数の最大幸福」	個人と社会のあり方を考える	
第5回	功利主義の基礎	功利主義とは？功利主義者の原典を読んでみる	
第6回	幸福の計算	幸福とは何か、幸福へ至る道とは？	
第7回	人格概念	人格概念を検討する	
第8回	事実判断と価値判断	「である」と「べきである」の関係性について	
第9回	カントの定言命法	カントの倫理学説再説	
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？	道徳の原則とは何か？	
第11回	囚人のジレンマ	囚人にとって一番利益になる行為とは？	
第12回	施しは義務か？	貧者を援助しなければならないことの根拠	
第13回	正義は時代によって変わるか？	格差問題を考える	
第14回	科学は価値中立的か？	科学技術の光と闇	
第15回	まとめ	授業全体のまとめ	

評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。
教材教科書参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、760円）
留意点	自分の意見を文章化し発表する作業（atelier）を授業時間内に設ける。教科書毎回持参のこと。

科目名	環　境　論	科目コード	N11010	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	北　村　　繁		授業形態	講義	単独	

授業の概要	[キーワード：　土壌、肥沃性、土壌分類、物質循環、気候環境] ① 土壌の肥沃性　②土壌生成と気候　③土壌分類　④気候環境と物質循環
到達目標	気候・植生と土壌の関係、および、土壌分類について学ぶとともに、環境のなかでどのように物質が循環しているかを理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	土壌とは何か、土壌の機能、肥沃性	土壌の定義について考えるとともに、土壌の機能や肥沃性について学ぶ	
第2回	土はなにからできているか、土はどのように形成されるか①（無機物）	土を構成するものについて知るともに、土壌がどのように形成されていくものなのかを学習する	
第3回	土はどのように形成されるか②（有機物）、土壌の色①（腐植層位）	土壌がどのように形成されていくものなのかを学習するとともに、土壌の色と肥沃性について考える	
第4回	土と気候①（土壌と気温）、土壌の色②（下層土）	気温と土壌の肥沃性との関係について考えるとともに、土壌の色と温度との関係についても学ぶ	
第5回	土と気候②（土壌と降水量）	降水量と土壌の肥沃性との関係について考える	
第6回	（小テスト）、土の分類、緯度と気候帯	第５回までの範囲について小テストを行う。土壌分類、ならびに、アリソフの気候区分をもとにした気候帯の区分について学習する。	
第7回	湿潤熱帯の環境、湿潤熱帯の土壌①	湿潤熱帯の環境について学習するとともに、湿潤熱帯の環境下における土壌生成について学ぶ	
第8回	湿潤熱帯の土壌②、湿潤熱帯環境下の物質循環、季節性熱帯の環境	湿潤熱帯の環境下における土壌生成と物質循環について学習するとともに、季節性熱帯の環境について学ぶ	
第9回	季節性熱帯の環境とその環境下の土壌と物質循環	季節性熱帯の環境下における土壌生成と物質循環について学習する	
第10回	温帯の環境、および、湿潤な温帯の環境	温帯について学習するとともに、湿潤な温帯の環境について学ぶ	
第11回	湿潤な温帯環境下の土壌と物質循環	湿潤な温帯の環境下における土壌生成と物質循環について学習する	
第12回	乾燥した温帯の環境と乾燥した温帯環境下の土壌と物質循環	乾燥した温帯の環境について学ぶとともに、乾燥した温帯の環境下における土壌生成と物質循環について学習する	
第13回	半乾燥～乾燥熱帯の環境とその環境下の土壌	半乾燥～乾燥熱帯の環境について学ぶとともに、半乾燥～乾燥熱帯の環境下における土壌生成と物質循環について学習する	
第14回	冷帯・寒帯環境とその環境下の土壌と物質循環	冷帯・寒帯の環境について学ぶとともに、冷帯・寒帯の環境下における土壌生成と物質循環について学習する	
第15回	火山灰土	火山灰土壌の性質、土壌生成、利用について学習する	

評価方法及び評価基準	出席状況（口頭試問および宿題の提出を含む）・試験・小テスト。期末試験（８０点満点）、小テスト（15点満点）と出席状況（５点満点）を加えて６０点未満は不可。
教材 教科書 参考書	教科書は指定しない。資料プリント配布。参考図書は、講義中に紹介するほか、スライドや資料プリントの出典に示す。
留意点	講義中、指名して質問しますので、ご承知おきください。

科目名	生　物　学	科目コード	N11011	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	宇　田　宗　弘		授業形態	講義	単独	

授業の概要	21世紀は生命科学の時代といわれており、マスメディアからは病気の治療や医療技術の発展など生命科学と密接に関連する多くの情報が発せられています。一方、生命科学の進歩により新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うことを目標とし、生命の基本単位である細胞、遺伝子とその発現の制御、身体がつくられる過程などの生物学の基礎知識とともに、脳、がん、食と健康、免疫について学習します。また環境と生物のかかわり、生命科学技術、生命倫理、身体運動や老化による細胞の変化について学習します。さらに新聞の科学欄に掲載された記事についても解説します。
到達目標	1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を理解する。 2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。 3. 新聞やテレビなどで報道される生物学（生命科学・医学）に関わる情報を理解し、その情報を分析できるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	生命科学と現代社会のかかわり	生物・生命科学とは、自然科学とは、21世紀の生命科学	
第2回	細胞：生命の基本単位	どのようにして生物は細胞からできていることが明らかにされたのか、進化の過程でどのようにして細胞ができたのか、実験室で細胞を人為的に作成することは可能か、細胞はなぜ小さいのか	
第3回	生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA	メンデルの遺伝学、メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則、なぜ表現型として現れない形質があるのか	
第4回	生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA	転写のしくみ、遺伝子発現を制御するもの、突然変異となにか？、突然変異の種類、DNAの修復機構	
第5回	ゲノム情報はどのように発現するか	個人差とゲノム、遺伝と環境、エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノムの異常と病気	
第6回	複雑な体はどのようにしてつくられるか	発生の段階、細胞分化と器官形成、ホメオティック遺伝子、動物の発生と進化、種々の幹細胞と再生医療への応用	
第7回	脳はどこまでわかったか	ヒトの脳の構造、神経細胞、臨界期、記憶と学習の種類、記憶と長期増強、認知症、運動が脳に及ぼす影響	
第8回	がんとはどのような現象か	日本人の死因、細胞増殖および細胞死、発がんとがん遺伝子、がん抑制遺伝子、細胞のシグナル伝達、がんの診断と病理および治療	
第9回	食と健康	食べるとは、消化と吸収、酵素（酵素ダイエットは有効か？）、生物エネルギーとATP、食と健康をめぐる最近の話題	
第10回	ヒトは病原体にどのように備えるのか	人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、微生物と感染、免疫とは何か、免疫応答のしくみ	
第11回	身体運動の生命科学	生活習慣病、生活習慣病と体力または運動習慣の関係、インスリン抵抗性、身体運動時のエネルギー基質、	
第12回	身体運動の生命科学	運動時のホルモンの変化、骨格筋の糖取り込みに関わるシグナル伝達経路、毛細血管の変化、運動による脳の変化	
第13回	老化	老化とは、老化のメカニズム、老化学説、老化を遅らせることはできるのか？、サプリメントの効果、カロリー制限	
第14回	生命科学技術と生命倫理。	古い歴史をもつバイオ技術、バイオ技術としての新しい医薬品生産、品種改良の歴史、微量のDNAを増幅させるPCR技術、生命倫理とは、生命倫理の原則、生命倫理と宗教、人体の商品化、	
第15回	環境と生物	環境と適応、恒常性と環境応答、有性生殖と環境適応、生物と環境の相互作用、生態系の構造と動態、生物多様性と地球環境の保全	

評価方法及び評価基準	テスト（100%）により評価する（2/3以上の出席者）。テストは論述式で、授業で扱った内容（専門用語、生命現象、生命科学の進歩により新たに生まれる問題など）についての理解を問う問題を出し、その理解度と文章の論理性について評価します。
教材 教科書 参考書	教科書：現代生命科学、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社（必ず購入してください。） 参考書：①カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書、第１巻～第３巻、　D・サダヴァ　他著、石崎 泰樹／丸山 敬　監訳・翻訳 ②健康に老いる　老化とアンチエイジングの科学　後藤佐多良　著、東京堂出版（①、②の参考書は購入する必要はありません。） 講義資料を配布することがある。
留意点	新聞の科学欄（特に医学・生命科学・医療関係の記事）を読むようにしてください。

科目名	化　　学	科目コード	N11012	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	長　南　幸　安		授業形態	講義	単独	

授業の概要	人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるようになるために、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得する。
到達目標	生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得することを目的とします。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得することです。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	化学の基本事項	ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。化学の基本事項として物質変化・物質の分類・化学反応熱について。またその身近な具体例示。	
第2回	酸性・塩基性の化学	酸・塩基の三つの定義。食品の酸性とアルカリ性。酸性や塩基性の身近な物質。中和反応を利用した料理方法など。	
第3回	衣服の化学	衣服の生理学的・社会学的目的。天然繊維と合成繊維の種類と合成方法。最新の機能性新素材。	
第4回	洗濯の化学	汚れの種類。界面活性剤の構造と機能。石けんの歴史と合成方法。洗剤に含まれている化学物質と合成洗剤の特徴。	
第5回	水の化学	水の構造とそれによる分極、および水素結合。水素結合による沸点上昇・表面張力などの現象。ミネラルウォーターの定義と硬水・軟水。	
第6回	プラスチックの化学	プラスチックの合成方法（縮合重合・付加重合）。熱可塑性と熱硬化性。新機能性プラスチックとプラスチックのリサイクル。	
第7回	料理の化学	五大栄養素と三大栄養素。ビタミンの種類（水溶性と脂溶性）。ミネラルと必須ミネラル。五つの味覚と発酵食品。	
第8回	コロイドの化学	コロイドの定義と種類。身近なコロイドの具体例。チンダル現象やブラウン運動などコロイドの特徴的な性質と現象。	
第9回	薬の化学	リード化合物発見のためのランダムスクリーニングとハイスループットスクリーニング。リード化合物の構造最適化。薬発見の具体的例示。食との飲み合わせについて。	
第10回	化石資源の化学	石油・石炭・天然ガスの特徴について。化石資源・化石燃料と呼ばれる理由。またそれぞれの利用方法と最新の技術。環境汚染物質の発生について。	
第11回	身近な材料の化学	セラミックスの定義と特徴。身近な具体例。ファインセラミックスの定義と具体例。材料としての金属の歴史と特徴、利用例。最新の材料。	
第12回	電池の化学	電気・電池の発見と改良の歴史。電池の種類とそれぞれの特徴。電池の化学的原理と構造。最新の電池技術。	
第13回	電気製品の化学	永久磁石と電磁石の違いと特徴。電磁力を利用した電化製品や電子技術に関して。液晶の定義と化学的原理。	
第14回	固・液・気の化学	状態変化の定義と身近な事象について。状態変化を利用した様々な現象とその化学的原理や法則について。	
第15回	まとめ＋試験	今までの総まとめと、確認テストの実施。	

評価方法及び評価基準	期末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減（±20%まで）し、総合的に判断し評価します。
教材 教科書 参考書	「身の回りから見た 化学の基礎」芝原寛泰・後藤景子　共著　化学同人
留意点	毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修者向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。

科目名	統計学の基礎	科目コード	N11013	単位数 時　間	1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	三　上　聖　治			授業形態	講義	単独

授業の概要	色々な統計手法の考えかたや実際の計算方法を習得して看護活動に生かせるように統計学の基礎を学ぶ。人に用いる統計、厚生統計など身近の数字から指標のとり方や度数分布、相関関係、分布の代表値、平均、標準偏差、標準化、標本分布、推定、検定などを理解する
到達目標	・尺度について理解することができる。・ ・母集団と標本について理解することができる。 ・代表値を計算することができる。 ・検定の手順と方法について実践することができる。 ・看護学関係論文の統計手法について理解することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	統計学とは	統計学が発達した背景、看護学との関連について学習する。	
第2回	統計学で扱う用語とデータについて	これまでの数学的な復習と新しい用語について学習する。	
第3回	記述統計と推測統計について	集団的なものの見方について、代表値と母集団について学習する。	
第4回	１変数の記述統計	１変数の代表値について学習する。	
第5回	多変数の記述統計	多変数の代表値について学習する。	
第6回	確率論	推測統計学の基礎となる確率論についての考え方、手法について学習する。	
第7回	離散型確率変数	離散型変数と確率について学習する。	
第8回	連続型確率変数	連続型変数と確率密度について学習する。	
第9回	母集団と標本	観察集団から母集団を推測する方法を学習する。	
第10回	正規母集団の標本分布	正規分布の性質と計算方法について学習する。	
第11回	点推定と区間推定	信頼区間について学習する。	
第12回	仮説検定の手順	帰無仮説と対立仮説の考え方、使い方を学習する。	
第13回	質的変数の仮説検定	カテゴリーの考え方と検定方法について学習する。	
第14回	量的変数の仮説検定	平均値の差の検定や分散分析について学習する。	
第15回	多変量解析	変数間の関係について学習する。	

評価方法及び評価基準	レポート、試験、授業の受け答えによる加算評価 レポート（手順と結果５０％）、試験（４０％）、授業の受け答え（１０％）
教材 教科書 参考書	教科書：看護師のための統計学、共立出版
留意点	平方根の出来る電卓を用意すること。遅刻は認めない。

科目名	英　語　ＩＡ	科目コード	N12001	単位数 時　間	1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	野　呂　佐枝子		授業形態	講義	単独	

授業の概要	英語ＩＡでは、基本的な英語の語彙と文法を学ぶことを目的とします。テキストの各章の最初にある文法の説明のあと、基本的な設問を解き、そのあと日本語訳や並べ替えなど文章の問題を解いていきます。章の最後にあるComprehensionの文章を読み、語彙や文法を確認してから内容を理解します。英語独特の言い方や日本語に訳すときの注意についても学びます。
到達目標	テキストは最初に文法の説明があるので、まずはそれを確実に理解することを第一の目標とする。 そのあと、Exerciseの語彙や文法などが理解でき、各章の読み物（Comprehension)を、辞書を引きながらでも一人で読めるようになり、設問が解けることを目指す。 また、学期を通して常に語彙を増やすことを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考	回	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション、高校までの英語と大学での英語について	英語の基本的な文法事項、これからの授業の進め方、重要な点、注意するべき点などの説明		第16回	Unit 7からUnit 8	冠詞／不定詞	
第2回	Unit 1	文の要素と基本５文型		第17回	Unit 8	不定詞	
第3回	Unit 1からUnit 2	文の要素と基本5文型／動詞の種類		第18回	まとめ(1)	Unit 7−Unit 8	
第4回	Unit 2	動詞の種類		第19回	Unit 9	分詞	
第5回	まとめ(1)	Unit 1−Unit 2		第20回	Unit 9からUnit 10	分詞／動名詞	
第6回	Unit 3	動詞の時制		第21回	Unit 10	動名詞	
第7回	Unit 3　からUnit 4	動詞の時制／助動詞		第22回	まとめ(2)	Unit 9−Unit 10	
第8回	Unit 4	助動詞		第23回	Unit 11	接続詞	
第9回	まとめ(2)	Unit 3−Unit 4		第24回	Unit 11からUnit 12	接続詞／関係詞	
第10回	Unit 5	名詞		第25回	Unit 12	関係詞	
第11回	Unit 5　からUnit 6	名詞／代名詞		第26回	まとめ(3)	Unit 11−Unit 12	
第12回	Unit 6	代名詞		第27回	Unit 13	前置詞	
第13回	まとめ(3)	Unit 5−Unit 6		第28回	Unit 13からUnit 14	前置詞／比較	
第14回	Unit 7	冠詞		第29回	Unit 14	比較	
第15回	前期のまとめ	前期のまとめと試験		第30回	後期のまとめ	後期のまとめと試験	

評価方法及び評価基準	出席は3分の2以上必要で、それに満たない場合は評価の対象となりません。 期末試験を行い、それ以外に少なくとも前期一回後期一回の小テストを行います。 通常の授業では、予習が必須となります。宿題や課題もあり、自由提出の課題もあります。 通常の授業での参加度や協力度も評価の対象になります。 評価に占める割合が高いから順に、期末試験(6割)、小テスト(2割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度(2割)、となります。 授業中に寝ていたり、別のことをしていたりすると、評価の割合に関係なく**評価の対象から外れることになります**ので十分注意してください。
教材 教科書 参考書	Steady Steps 『英文法から確かな一歩』、朝日出版社、日高正司、三幣友行、Bruce Miller 英和・和英辞書 英文法の参考書（『フォレスト』や『アーネスト』など）
留意点	英語の辞書のほかに文法の参考書を必ず用意すること。高校で使っていた英文法の参考書でもよい。 予習は必ずやってくること。またわからないところは必ず復習や質問をして、期末試験までに疑問をなくしておくこと。 授業中にスマートフォンでゲームやメールをするなど授業に関係ないことをした場合は、評価の対象から外されます。

科目名	英　語　ＩＢ	科目コード	N12002	単位数 時　間	1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	野　呂　佐枝子		授業形態	講義	単独	

授業の概要	英語ＩＢでは、基本的な英語の語彙と文法を学ぶことを目的とします。テキストの各章の最初にある文法の説明のあと、基本的な設問を解き、そのあと日本語訳や並べ替えなど文章の問題を解いていきます。章の最後にあるComprehensionの文章を読み、語彙や文法を確認してから内容を理解します。英語独特の言い方や日本語に訳すときの注意についても学びます。
到達目標	テキストは最初に文法の説明があるので、まずはそれを確実に理解することを第一の目標とする。 そのあと、Exerciseの語彙や文法などが理解でき、各章の読み物（Comprehension)を、辞書を引きながらでも一人で読めるようになり、設問が解けることを目指す。 また、学期を通して常に語彙を増やすことを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考	回	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション、高校までの英語と大学での英語について	英語の基本的な文法事項、これからの授業の進め方、重要な点、注意するべき点などの説明		第16回	Unit 7からUnit 8	冠詞／不定詞	
第2回	Unit 1	文の要素と基本５文型		第17回	Unit 8	不定詞	
第3回	Unit 1からUnit 2	文の要素と基本5文型／動詞の種類		第18回	まとめ(1)	Unit 7−Unit 8	
第4回	Unit 2	動詞の種類		第19回	Unit 9	分詞	
第5回	まとめ(1)	Unit 1−Unit 2		第20回	Unit 9からUnit 10	分詞／動名詞	
第6回	Unit 3	動詞の時制		第21回	Unit 10	動名詞	
第7回	Unit 3　からUnit 4	動詞の時制／助動詞		第22回	まとめ(2)	Unit 9−Unit 10	
第8回	Unit 4	助動詞		第23回	Unit 11	接続詞	
第9回	まとめ(2)	Unit 3−Unit 4		第24回	Unit 11からUnit 12	接続詞／関係詞	
第10回	Unit 5	名詞		第25回	Unit 12	関係詞	
第11回	Unit 5　からUnit 6	名詞／代名詞		第26回	まとめ(3)	Unit 11−Unit 12	
第12回	Unit 6	代名詞		第27回	Unit 13	前置詞	
第13回	まとめ(3)	Unit 5−Unit 6		第28回	Unit 13からUnit 14	前置詞／比較	
第14回	Unit 7	冠詞		第29回	Unit 14	比較	
第15回	前期のまとめ	前期のまとめと試験		第30回	後期のまとめ	後期のまとめと試験	

評価方法及び評価基準	出席は3分の2以上必要で、それに満たない場合は評価の対象となりません。 期末試験を行い、それ以外に少なくとも前期一回後期一回の小テストを行います。 通常の授業では、予習が必須となります。宿題や課題もあり、自由提出の課題もあります。 通常の授業での参加度や協力度も評価の対象になります。 評価に占める割合が高いから順に、期末試験(6割)、小テスト(2割)、宿題および課題と授業への参加度・協力度(2割)、となります。 授業中に寝ていたり、別のことをしていたりすると、評価の割合に関係なく**評価の対象から外れることになります**ので十分注意してください。
教材 教科書 参考書	Steady Steps 『英文法から確かな一歩』、朝日出版社、日高正司、三幣友行、Bruce Miller 英和・和英辞書 英文法の参考書（『フォレスト』や『アーネスト』など）
留意点	英語の辞書のほかに文法の参考書を必ず用意すること。高校で使っていた英文法の参考書でもよい。 予習は必ずやってくること。またわからないところは必ず復習や質問をして、期末試験までに疑問をなくしておくこと。 授業中にスマートフォンでゲームやメールをするなど授業に関係ないことをした場合は、評価の対象から外されます。

科目名	英　語　Ⅱ	科目コード	N12003	単位数 時　間	2単位 60時間	対象学年	2年	開講学期	通年
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	アンドリュー・ラッセル		授業形態	講義		単独

授業の概要	基本的なヒヤリング、スピーキング、ライティングの学習。さらに会話能力の向上も目指します。
到達目標	英語の能力をのばすと同時に、日本語と英語を話す国との間に存在する文化的な違いを理解することを目的とします。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考	回	主題	授業内容	備考
第1回	レベルチェック	オリエンテーション・能力チェック		第16回	教科書より	Then and now: Looking at the past.	
第2回	教科書より	Hello everybody: Introducing myself		第17回	教科書より	Talking about famous people from the past.	
第3回	教科書より	Introducing other people.		第18回	教科書より	A date to remember: When did it happen.	
第4回	教科書より	Meeting people: talking about other people.		第19回	教科書より	How we met? Important dates.	
第5回	教科書より	Writing about your life and shopping.		第20回	教科書より	Food you like! What I like and what I would like!	
第6回	教科書より	The world of work: talking about what you do.		第21回	教科書より	How many are there? How much is there?	
第7回	教科書より	Talking about what other people.		第22回	教科書より	Looking good! Describing people and what they are doing!	
第8回	教科書より	Take it easy: My routine.		第23回	教科書より	Whose is it? What was it like?	
第9回	教科書より	What I like doing.		第24回	教科書より	Life is an adventure: What I am going to do in the future.	
第10回	教科書より	Where do you live? Talking about your place.		第25回	教科書より	Which is bigger? Which is more interesting?	
第11回	教科書より	Can you speak English?		第26回	教科書より	Have you ever? Things I have done and things I have never done.	
第12回	教科書より	What you can and cannot do!		第27回	教科書より	What other people have done!	
第13回	教科書より	What I could not do but I can do now!		第28回	教科書より	Bringing it all together. Practicing what we have learned.	
第14回	まとめ	前期に学んだことのまとめ		第29回	まとめ	後期に学んだことのまとめ	
第15回	まとめ	前期授業の総括		第30回	まとめ	後期授業の総括	

評価方法及び評価基準	授業への参加、積極性、課題、及び学期ごとのテスト（５０％５０％）
教材 教科書 参考書	American Headway Level 1 Student book 978-0-19-472565-1 American Headway Level 1 Workbook 978-0-19-472569-9
留意点	学生は授業をすべて英語で行うことを想定してください。

科目名	英　語　Ⅲ	科目コード	N12004	単位数 時　間	1単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	吉　岡　利　忠　他		授業形態	講義	単独	

授業の概要	英語教材を利用して、看護・医療に関連する英単語や英語表現を理解し、看護臨床場面における英会話力や英文の読解力を高める。　英語での患者とのコミュニケーション（あいさつ、症状の表現等）をトレーニングする。　また、看護・医療に関連した英文を読み、基本的な語彙や表現を身につける。　英文の観光冊子・解剖生理学の序論などを読解する。
到達目標	１．看護・医療に関連する基本的な英語の語彙・表現を身につける。 ２．臨床場面における基本的な英会話の能力を身につける。 ３．看護・医療に関する平易な英語の文章が読解できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	Orientation　オリエンテーション	自己紹介、授業日程表の配布、次回の教科書・観光冊子等の作業割振、海外留学のスライド映写、教科書1～8頁などの予習	
第2回	Is this your first visit to this hospital ?　最初の訪問	教科書1～8頁の音読・和訳と会話、Hunterian Museum博物館冊子の音読・和訳とスライド映写、教科書9～16頁などの予習	
第3回	What's the matter ?　どうしました	教科書9～16頁の音読・和訳と会話、F. Nightingaleナイチンゲール冊子の音読・和訳と映写、教科書17～24頁の予習	
第4回	You need to go to Dermatology.　皮膚科に行きましょう	教科書17～24頁の音読・和訳と会話、Zoo Frankfurt動物園冊子の音読・和訳とスライド映写、教科書25～32頁などの予習	
第5回	Let me direct you to Radiology.　放射線科に行きましょう	教科書25～32頁の音読・和訳と会話、WC. Röntgenレントゲン冊子の音読・和訳とスライド映写、教科書33～39頁などの予習	
第6回	Let's check your height and weight.　身長と体重を計測しましょう	教科書33～39頁の音読・和訳と会話、Würzburg Cityビュルツブルグ市冊子の和訳とスライド映写、教科書40～47頁などの予習	
第7回	I need to ask you some questions.　質問があります	教科書40～47頁の音読・和訳と会話、National Galleryナショナルギャラリー冊子の和訳と映写、教科書48～54頁の予習	
第8回	Can you describe the pain ?　痛みはどこですか	教科書48～54頁の和訳と会話、Sacré-cœur de Montmartreモンマルトル寺院冊子の和訳と映写、教科書55～60頁の予習	
第9回	Rest your arm on the armrest.　腕を肘掛において下さい	教科書55～60頁の音読・和訳と会話、Medicine Catalogue医学書カタログの音読・和訳と映写、教科書61～68頁などの予習	
第10回	Please make a follow-up appointment.　予約して下さい	教科書61～68頁の音読・和訳と会話、History of Medicine医学の歴史冊子の音読・和訳と映写、教科書69～76頁などの予習	
第11回	Take this medicine after meals.　食後に薬を飲んで下さい	教科書69～76頁の音読・和訳と会話、British Museum大英博物館冊子の和訳とスライド映写、教科書77～85頁などの予習	
第12回	Your operation will be this afternoon.　手術は今日の午後です	教科書77～85頁の音読・和訳と会話、Nürnberg Cityニュールンベルグ市冊子の和訳とスライド映写、教科書86～92頁の予習	
第13回	Are you feeling more comfortable now ?　気分はいかがですか	教科書86～92頁の音読・和訳と会話、Stonehengeストーンヘンジ冊子の和訳とスライド映写、教科書93～100頁などの予習	
第14回	This is an emergency.　緊急時です	教科書93～100頁の音読・和訳と会話、解剖生理学のMedical terms 1-2の音読・和訳、教科書101～109頁などの予習	
第15回	Tests show you have high sugar levels.　血糖値が高いです	教科書101～109頁の音読・和訳と会話、解剖生理学のGlossary 1-2の音読・和訳の音読・和訳、次回は筆記試験を実施	

評価方法及び評価基準	授業に参加し、教科書・観光冊子・プリントなどの指定された英文を音読・和訳し、指示された会話などを行う（60%）。前記の授業参加状況に筆記試験（40%）の得点を加味して、総合的に評価する。
教材教科書参考書	各担当教員から指示する。
留意点	英語Ⅱを履修していなくても、この授業は受講することができます。　英語に親しみ、楽しく積極的に学びましょう。

科目名	ドイツ語Ａ	科目コード	N12006	単位数 時　間	1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	田中　寿子		授業形態	講義	単独	

授業の概要	ドイツ語を使ってコミュニケーションしましょう！
到達目標	①　ドイツ語で挨拶ができる。 ②　ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	0課　発音の基礎	挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ（1）	
第2回	0課　発音の基礎	挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ（2）	
第3回	1課　名前、住まい、出身、身分	公的な相手と話す・自己紹介する	
第4回	1課　名前、住まい、出身、身分	親しい相手と話す・自己紹介する	
第5回	2課　簡単な質問に答える	「はい」「いいえ」を使って答える	
第6回	2課　簡単な質問に答える	「はい」「いいえ」を使わないで答える	
第7回	3課　買い物をする	数詞を学ぶ。値段を尋ねる・答える	
第8回	3課　買い物をする	店に入って買い物をする	
第9回	4課　身の回りの物について話す	身近な単語を会話に取り入れる（1）	
第10回	4課　身の回りの物について話す	身近な単語を会話に取り入れる（2）	
第11回	5課　第三者について話す	第三者を話題に登場させる	
第12回	5課　私たちについて話す	誘いかけの表現に慣れる	
第13回	6課　便利な表現	便利表現を会話に取り入れる	
第14回	総復習（1～6課）	プリントを使って学習した内容を総復習	
第15回	まとめ（1～6課）	学習内容の総仕上げ	

評価方法及び評価基準	・期末試験 50%、授業への参加度 50%、総合して 60% 以上で単位を認定します。 ・期末試験は到達目標①、②を試す問題を出します。 ・授業への参加度は、積極的な授業参加と毎回提出するノートで評価します。授業では再重要のやさしい日常ドイツ語を繰り返し練習しますが、その内容をすべてノートに書きます。
教材 教科書 参考書	「ドイツ語インフォメーション neu^2」（ 朝日出版社　） 「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（　同学社　）を推薦します。
留意点	ドイツ語 B と共通教科書を使い連携して理解を深めます。 授業への参加度重視。積極的に授業に参加しましょう。

科目名	ドイツ語Ｂ	科目コード	N12005	単位数時間	1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	田中　岩男		授業形態	講義	単独	

授業の概要	［キーワード：聞く、話す、書く］ ドイツ語の基礎的な運用能力（聞く、話す、書く）を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。
到達目標	・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	つづりと発音（1）	アルファベートと簡単な挨拶	
第2回	つづりと発音（2）	母音と子音、数の読み方	
第3回	タナカマコトと申します（1）	1課：テキストとパートナー練習	
第4回	タナカマコトと申します（2）	1課：練習問題と演習	
第5回	何をしているの？（1）	2課：テキストとパートナー練習	
第6回	何をしているの？（2）	2課：練習問題と演習	
第7回	その帽子はいくらですか？（1）	3課：テキストとパートナー練習	
第8回	その帽子はいくらですか？（2）	3課：練習問題と演習	
第9回	コーヒーを一杯ください（1）	4課：テキストとパートナー練習	
第10回	コーヒーを一杯ください（2）	4課：練習問題と演習	
第11回	こちらザビーネです（1）	5課：テキストとパートナー練習	
第12回	こちらザビーネです（2）	5課：練習問題と演習	
第13回	何を注文する？（1）	6課：テキストとパートナー練習	
第14回	何を注文する？（2）	6課：練習問題と演習	
第15回	まとめ	前期の総まとめ	

評価方法及び評価基準	出席状況・授業への参加度・定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度（出席状況を含む）50%　　定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。
教材教科書参考書	「ドイツ語インフォメーション neu^2」（朝日出版社）を教科書として使います。 「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）を推薦します。
留意点	ドイツ語Aと共通教科書を使い、連携して理解を深めます。 楽しみながら、新しいことに挑戦するつもりで積極的に参加してください。

科目名	日本語表現法	科目コード	N13001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科目	必修	担当者名	井上　諭一・今村　かほる・佐々木　正晴 生島　美和・原　圭寛			授業形態	講義	複数

授業の概要	母語である日本語を話すトレーニング、書くトレーニング、（複数回の添削指導を含む）を行い、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、の日本語表現の基本を学習する。 日常生活に於ける実用的な文章の書き方、日常的な正しい会話、プレゼンテーションについて習得する。
到達目標	日本語の表現（聞くこと、話すこと、読むこと、書くことすべて）について、現代の大学生として最低限必要な知識と技術を、受講者全員が共有できること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	日本語音声の基礎実践（今村）	アクセントとイントネーション実践	4月13日
第2回	日本語音声の理解（今村）	共通語と方言・講義中に課題を提示	4月20日
第3回	コミュニケーション実践（今村）	報告・説明・理解の理論と実践	4月27日
第4回	日本語文章表現の「基礎の基礎」を学ぶ（井上）	禁則処理その他	5月11日
第5回	簡単な文章の要約を作る（井上）	箇条書きと段落分け	5月18日
第6回	複雑な文章から引用しコメントする（井上）	引用、注記の仕方	5月25日
第7回	テーマを設定し引用・コメントをしつつ自分の意見を述べる(小論文の基礎)（原）	引用文の扱い方について	6月1日
第8回	他者に対して的確な意見を述べる（会議・討論の基礎）（原）	ディスカッションの作法と理論の構造について	6月8日
第9回	手紙文（電子メール）・自己推薦文を書く（原）	手紙文・自己推薦分の作法について	6月15日
第10回	コミュニケーションと社会参加(生島)	多様な他者を理解し、聞き、伝えることの重要性を理解する。	6月22日
第11回	実験結果の処理の方法(佐々木)	実験の概念と日常生活との関連.実験結果の処理法を事前に決める.	6月29日
第12回	プレゼンテーションの方法(生島)	資料を使う口頭発表－プレゼンテーションの基礎について学ぶ。 ポスターセッションに向けて各自ポスターを作成する。	7月6日
第13回	実験レポートの書き方（佐々木）	実験を行い,レポートを書いてみる.結果を考察する個人差を見る.	7月13日
第14回	ポスターセッション（生島）	ポスターセッション－制作してきたポスターを使いながら、ポスターセッションを行う。(体育館にて)	7月20日
第15回	実験結果の口頭発表（佐々木）	実験結果を改めて考察し直し,各自1分間で発表する.延長不可.	7月27日

評価方法及び評価基準	担当教員ごとに試験又はレポートにより評価し、回数に比例して重みづけした上で合算する。(100点) 欠席1回につき3点をマイナスする。
教材 教科書 参考書	各担当教員から指示する。
留意点	提出課題に関しては担当者の指示に従うこと。

科目名	音楽	科目コード	N13002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	竹佐古　真希		授業形態	講義	単独	

授業の概要	「礼拝堂で学ぶオルガン音楽の歴史」実践編。ピアノよりも長く古い歴史を持つパイプオルガン。その歴史をたどれば、紀元前の水力オルガンにまで及ぶ。映像や音源の紹介と、実際に礼拝堂でオルガンの実演を織り交ぜながら体感しつつ学んでいく。広く鍵盤音楽史とキリスト教音楽の歴史にも触れる。
到達目標	今期はキリスト教音楽の歴史を総合的に学びつつ、各自が楽器に触れて演奏することを到達目標とする。最終講義日までに、賛美歌または任意の1曲（ジャンルは問わない）を演奏できるように準備すること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	聖なる空間とオルガン	教会建築の歴史、本格的教会建築の始まり、オルガン実技	
第2回	聖なる空間とオルガン２）	教会建築の歴史、ゴシック、ノートルダム、オルガン実技	
第3回	聖なる空間とオルガン３）	オルガンの歴史、古代～中世、オルガン実技	
第4回	聖なる空間とオルガン４）	オルガンの歴史、15－18世紀、オルガン実技	
第5回	キリスト教とその音楽の歴史	古代の音楽、聖書と音楽、オルガン実技	
第6回	キリスト教とその音楽の歴史２）	宗教改革時代の音楽、ルターの讃美歌、オルガン実技	
第7回	キリスト教とその音楽の歴史３）	教会音楽のバロック期、オルガン実技	
第8回	キリスト教とその音楽の歴史４）	バッハの音楽、オルガン実技	
第9回	キリスト教とその音楽の歴史５）	バッハ以降の教会音楽、オルガン実技	
第10回	キリスト教会の歌	旧約聖書の歌、オルガン実技	
第11回	キリスト教会の歌２）	新約聖書の歌、オルガン実技	
第12回	キリスト教会の歌３）	講義内にて演奏会を鑑賞予定（オルガンと声楽）	
第13回	クリスマス礼拝	クリスマス礼拝に出席、（レポート提出）	12月第2週の木曜日
第14回	クリスマス音楽の夕べ	クリスマス音楽の夕べに出席、（レポート提出）	12月第2週の木曜日
第15回	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り、（オルガン演奏実技）	

評価方法及び評価基準	平常点評価（40%）、クリスマス礼拝とクリスマス音楽会に出席をしてレポートを提出する（2回・各15%）。　最終講義内でオルガン演奏実技、（1回・30%）。
教材 教科書 参考書	讃美歌21、「キリスト教音楽への招待　～聖なる空間に響く音楽」佐々木しのぶ、佐々木悠（教文館）
留意点	楽器や曲の練習時間に関しては、可能な範囲で講義外にも対応するように心がける。詳細は講義時間内に打ち合わせる。必要な楽譜は、こちらで準備する。

科目名	スポーツ科学概論	科目コード	N14001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科学	必修	担当者名	棟　方　達　也		授業形態	講義	単独	

授業の概要	スポーツは遊びです。しかしスポーツは、現代社会に広く浸透し、文化的生活に少なからず影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっています。２０２０年にはスポーツ界の象徴であり縮図とも言えるオリンピックが東京で開催されます。このオリンピックを中心にスポーツを多角的に概観し、新たなスポーツ像を見出してみましょう。
到達目標	スポーツの存在意義を再認識し、新たなスポーツ像を描く。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス及び導入	単位、評価、科目の位置付け等の説明。スポーツを学問の対象にするとはどういうことか。	
第2回	身体運動とは？	身体運動の存在意義を人類の歴史に即して捉える。	ppt.スライドとプリントを使って講義
第3回	身体運動のスポーツ化	身体運動が実用術から非実用術へ移行しスポーツ化する過程を理解する。	ppt.スライドとプリントを使って講義
第4回	オリンピックという存在	そもそもオリンピックというスポーツイベントはどのようなものなのかを『オリンピック憲章』に基づいて解説する。（『オリンピック憲章』に目を通すこと。）	ppt.スライドとプリントを使って講義
第5回	古代オリンピック	古代ギリシャで長年開催されていた古代オリンピックから当時のスポーツ観やスポーツの存在価値を知る。	ppt.スライドとプリントを使って講義
第6回	近代オリンピックの歴史1	その始まりと理念及び第２次世界大戦以前の普及と存在意義の変容	ppt.スライドとプリントを使って講義
第7回	近代オリンピックの歴史２	日本と近代オリンピックの関係を歴史的に見る（JOCホームページ等参照）	ppt.スライドとプリントを使って講義
第8回	映像資料に見るオリンピック	オリンピックの精神やエピソード、魅力等を紹介するDVDの視聴と解説	DVDを資料に使う講義
第9回	オリンピックビジネス	特にプロ解禁以降、世界を動かすビジネスとして拡大し続けるオリンピックを商業主義の観点をふまえつつ分析する。	ppt.スライドとプリントを使って講義
第10回	ドーピング１	ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。（JADAやJOC等のホームページ参照）	ppt.スライドとプリントを使って講義
第11回	ドーピング２	ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。（JADAやJOC等のホームページ参照）	DVDを資料に使う講義
第12回	各論１（スポーツと国際情勢）	スポーツ界から見る国際情勢を「伝播」「宗教」「女性」といった観点から捉える。	ppt.スライドとプリントを使って講義
第13回	各論２（スポーツと自然）	自然を対象とする身体運動の概念と科学の進歩によるアウトドアスポーツ（登山を例に）の変容を理解する	ppt.スライドとプリントを使って講義
第14回	各論３（スポーツボランティア）	「観る」、「する」に比べ見逃されがちな「支える」という形によるスポーツ界との関わりについて理解する。	ppt.スライドとプリントを使って講義
第15回	総括	これまでの講義全体を振り返り、補足や要点の整理をする。試験の傾向と対策	

評価方法及び評価基準	試験：１００％（スポーツに対する認識と理解度を問う設問集）　※配布したプリント（ppt.スライド）に加えて、講義内容をしっかりノートしていることを前提に問題を出す。
教材教科書参考書	ppt.スライド、プリント配布、DVD
留意点	出席は取りませんが、授業でしっかりノートを取らないと、後でプリントだけ見ても理解できません。

科目名	スポーツ科学実技A （バスケットボールA）	科目 コード	N14002	単位数 時　間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	看護基盤科学	選択	担当者名	棟　方　達　也			授業 形態	実技	単独

授業の概要	バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム（５人）の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実戦を学びます。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができません。週に一度の授業で上手くはなりません。従って、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることが重要です。
到達目標	バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実戦においては、チームの一人一人に必ず役割とやることがあることをふまえ、何をすべきか判断し動くよう努力する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	受講者数、経験の有無等の確認　体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達	ガイダンスのみのため着替えの必要なし
第2回	バスケットボールの基礎知識とルール及び受講者のレベル確認	１．名称、歴史、コートの規格等　２．最終的に５対５のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。　３．技能チェック	プリント配布
第3回	基本の動き１	ストップ動作を基軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動	
第4回	基本の動き２	フットワーク各種、対人の動き	
第5回	基本の技術１	ボールハンドリング、ピボット、キャッチ、パス	
第6回	基本の技術２	対面パス、動きのあるパス、パス＆ラン（三角パス、四角パス）	
第7回	基本の技術３	対面パス、動きのあるパス、パス＆ラン（三角パス、四角パス）	
第8回	オフェンス１	バス＆ラン、シュートの基本、２メン	
第9回	オフェンス２	シュートの基本、２メン、３メン（３線の理解）	
第10回	オフェンス３	３メン、３対２、得点の確率を上げるための合理的な展開	
第11回	ディフェンス１	マンツーマンディフェンスの基本（ボールの位置、位置取り、ボールラインの理解、視野等）	
第12回	ディフェンス２	マンツーマンディフェンスの基本（ボールの位置、位置取り、ボールラインの理解、視野等）	
第13回	ディフェンス３	マンツーマンディフェンスの基本（ボールの位置、位置取り、ボールラインの理解、視野等）、３対３	
第14回	ゲーム	５対５	
第15回	ゲーム	５対５	

評価方法及び評価基準	授業への参加度：５０％　実技テスト：３０％　学科テスト：２０％
教材教科書参考書	使用しない
留意点	女子のみ受講可　３学部合同で実施　定員：２４名　但し、科目登録の時点で受講者が１０名に満たない場合は開講しません。

科目名	スポーツ科学実技B (Walking)	科目コード	N14003	単位数 時間	1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期変則
区分	看護基盤科学	選択	担当者名	棟　方　達　也		授業形態	実技		単独

授業の概要	「歩行」についてアウトドアスポーツ的側面から追求します。具体的には、平地での長距離ウォーク（イベント参加）と起伏のある場所でのウォーク（登山、トレッキング）を実践します。※尚、授業に関する情報を『弘前学院大学アウトドア系集中授業』というブログにて配信しています。昨年の様子（登山の部）等、参考にしてください。（Yahoo!ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/naturemountainriversea）
到達目標	日常のエクササイズというよりも、アウトドア系レクリエーションとして「歩く」ことを体感し、楽しむ。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス（４／９）	第１回目は、体育館に集合　　ウオーキングイベント及び登山実施前にガイダンスを実施	掲示に注意
第2回	タウンウォーク１（４／１６）	大学を起点とし、約５kmのコースを歩く	Aコース
第3回	タウンウォーク２（４／２３）	大学を起点とし、約５kmのコースを歩く	Bコース
第4回	タウンウォーク３（５／１火） ※月曜振替日	大学を起点とし、約５kmのコースを歩く	Cコース
第5回	タウンウォーク４（５／７）	大学を起点とし、約５kmのコースを歩く	Dコース
第6回	ウォーキングイベント参加（５回分）	・内容：『津軽路ロマン国際ツーデーマーチ』参加	陸奥新報社HP参照
第7回		・日程：５月１２日（土）～１３日（日）	
第8回		［課題］２日間で合計２５km以上になるように各自でコースを選択し参加する。	
第9回		（タウンウォークの時間以外にもイベントまでに長距離を歩くトレーニングを積んでおくことが望ましい。）	※後日、完歩証とレポートを提出
第10回			
第11回	登山（５回分）	・内容：日帰り登山	
第12回		・日程：７月以降の日曜祝日または夏休み中	
第13回		・場所：青森県内（八甲田山系または岩木山　等）	
第14回			
第15回			※後日、レポートを提出

評価方法及び評価基準	ガイダンス及び実習の参加状況：７０％　レポート：３０％
教材教科書参考書	山と高原地図４『八甲田・岩木山』２０１８年版　昭文社
留意点	イベント参加料（¥1,000）、他実費各自負担　　定員：８名（受講希望者が定員を超えた場合は抽選）　ウォーキング及び登山の全てに参加すること。

科目名	スポーツ科学実技C（シーカヤック）	科目コード	N14004	単位数時間	1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期集中
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	棟　方　達　也		授業形態	実技	単独	

授業の概要	シーカヤックとは、海で漕ぐカヤックのことです。シーカヤックツアーをメインとする海浜野外活動を体験学習します。２泊３日(テント泊）のハードでワイルドなサバイバルキャンプです。尚、授業に関する情報（2016年）を『弘前学院大学アウトドア系集中授業』というブログにて配信していますので、参考にしてください。（Yahoo!ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/naturemountainriversea）
到達目標	・シーカヤックの基本操作の習得　・自然との望ましいつきあい方の体得　・野外での衣食住と共同生活への順応

授　業　計　画

主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
1. ガイダンス及びキャンプの事前学習（７月）	・受講心得　・交通手段　・費用　・装備　・食事　等	要項配布
２．実習	実習地：北海道小樽市塩谷海岸または泊村盃海岸 日　程：夏休み中　２泊３日＋前後移動日 内　容：・陸上指導　・海上実践練習　・ショートツアー ・キャンプサイトの設営と撤収 ・燃料調達 ・食料、飲料水の管理 ・たき火の管理と野外炊事 ・各種海浜野外活動（各自）	

評価方法及び評価基準	ガイダンス及び実習の活動状況：１００％　※ガイダンス欠席の場合は、実習に参加できません。
教材教科書参考書	使用しない
留意点	定員：１２名　登録前に必ず、担当教員と面談し、適性の確認を受けてから登録すること。虫が嫌いな人、野外で排泄できない人、食べ物の好き嫌いが激しい人には向きません。履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締切日(6月末頃)までに入金が確認された者をもって履修者確定とし、納入後この内金は返金されませんので、登録には注意してください。受講費総額（内金含む）の目安¥35,000前後＋北海道往復旅費　３学部合同実施 ※泳げなくても大丈夫です。

科目名	スポーツ科学実技D （スクーバダイビング）	科目 コード	N14005	単位数 時　間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
区分	看護基盤科学	選択	担当者名	棟　方　達　也			授業 形態	実技	単独

授業の概要	スクーバダイバー認定コースを受講することで、スクーバダイビングを通じての海浜（海洋）野外活動を学びます。スクーバダイバーに認定されると、「Certification Card(通称：Cカード)」という世界共通の認定証が取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格を取得するための第一歩となります。実習期間中にスクーバダイバー認定に至らない場合、その一歩手前のパスポートダイバーに認定することもできます。 ※既にパスポートダイバー認定を受けている人、あるいはスクーバダイバー認定を受けている人等で上位コースの受講を希望する人にも対応しますので、相談してください。※尚、授業に関する情報を『弘前学院大学アウトドア系集中授業』というブログにて配信しています。昨年度の様子等、参考にしてください。（Yahoo!ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/naturemountainriversea）
到達目標	NAUI(National Association of Underwater Instructors)　スクーバダイバー認定

授　業　計　画

主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）
NAUIスクーバダイバー認定講習プログラム	１．ガイダンス（７月） ・受講心得　・交通手段　・費用　・装備等について　・事前提出書類について ２．実習 ・日　程　　夏休み中　２泊３日＋移動日 ・実習地　　北海道美国町（積丹半島） ・内　容　　［１日目］午前：実技講習１　午後：実技講習２ 夜：学科講習１ ［２日目］午前：実技講習３　午後：実技講習４ 夜：学科講習２＋学科試験 ［３日目］午前：実技講習５　午後：補習またはファンダイブ

評価方法及び評価基準	スクーバダイバー認定：１００％　パスポートダイバー認定またはそれと同等のレベルに達している場合：８０％ ※それ以外の場合は、受講状況と到達度により判断する。
教材 教科書 参考書	現地にて所定の教材セットを配布　（教材費も受講費に含まれます。）
留意点	足の届かない深さで泳げること。持病や体質等により受講できない場合がありますので、登録前に必ず、担当教員と面談し適性の確認を受けること。科目登録後、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締切日(6月末頃)までに入金が確認された者をもって履修者確定とし、納入後この内金は返金されませんので、登録には注意してください。　受講費総額（内金及び認定料含む）目安¥45,000程度＋北海道往復旅費　３学部合同実施

科目名	スポーツ科学実技E （スノースポーツ）	科目 コード	N14006	単位数 時　間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	看護基盤科学	選択	担当者名	棟　方　達　也			授業 形態	実技	単独

授業の概要	今年度の種目はスキーのみとします。各自のレベルに応じたグループ指導によりスキルアップを目指すとともに、スキーのおもしろさを学びます。生涯スポーツとしてよりいっそう楽しめるようになりましょう。尚、授業に関する情報を『弘前学院大学アウトドア系集中授業』というブログにて配信しています。昨年度の様子等、参考にしてください。 （Yahoo!ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/naturemountainriversea）
到達目標	・安全で楽しい技術の習得　・スキーの楽しさの理解

授　業　計　画

主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
１．ガイダンス	［１２月］要項配布と説明、確認	掲示に注意
２．実習	・実習地：安比高原スキー場	
	・日　程：冬休み中　２泊３日（降雪状況により延期あり）	
	・内　容：［１日目］午前　移動　現地到着後、開講式	
	午後　レッスン１（班分け含む）	
	［２日目］午前　レッスン２	
	午後　レッスン３	
	［３日目］午前　レッスン４	
	午後　レッスン５　終了後、閉講式	

評価方法及び評価基準	ガイダンス及び実習の参加状況と受講状況：１００％
教材 教科書 参考書	使用せず
留意点	履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締め切り日（６月末頃）までに入金が確認された者をもって履修確定とし、以後、受講をキャンセルしても内金は返金されませんので、充分確認の上、登録してください。受講費総額（内金含む）の目安¥45,000前後　３学部合同実施　※受講者数次第では、実施形式や実習地の変更または開講しない場合もあります。用具・ウエアの無い人には、格安レンタルもあります。

科目名	スポーツ科学実技F （バスケットボールB）	科目 コード	N14007	単位数 時　間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	看護基盤科学	選択	担当者名	棟　方　達　也			授業 形態	実技	単独

授業の概要	バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム（５人）の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実戦を学びます。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができません。週に一度の授業で上手くはなりません。従って、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることが重要です。
到達目標	バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実戦においては、チームの一人一人に必ず役割とやることがあることをふまえ、何をすべきか判断し動くよう努力する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	受講者数、経験の有無等の確認　体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達	ガイダンスのみのため着替えの必要なし
第2回	バスケットボールの基礎知識とルール及び受講者のレベル確認	１．名称、歴史、コートの規格等　２．最終的に５対５のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。　３．技能チェック	プリント配布
第3回	基本の動き１	ストップ動作を基軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動	
第4回	基本の動き２	フットワーク各種、対人の動き	
第5回	基本の技術１	ボールハンドリング、ピボット、キャッチ、パス	
第6回	基本の技術２	対面パス、動きのあるパス、パス＆ラン（三角パス、四角パス）	
第7回	基本の技術３	対面パス、動きのあるパス、パス＆ラン（三角パス、四角パス）	
第8回	オフェンス１	バス＆ラン、シュートの基本、２メン	
第9回	オフェンス２	シュートの基本、２メン、３メン（３線の理解）	
第10回	オフェンス３	３メン、３対２、得点の確率を上げるための合理的な展開	
第11回	ディフェンス１	マンツーマンディフェンスの基本（ボールの位置、位置取り、ボールラインの理解、視野等）	
第12回	ディフェンス２	マンツーマンディフェンスの基本（ボールの位置、位置取り、ボールラインの理解、視野等）	
第13回	ディフェンス３	マンツーマンディフェンスの基本（ボールの位置、位置取り、ボールラインの理解、視野等）、３対３	
第14回	ゲーム	５対５	
第15回	ゲーム	５対５	

評価方法及び評価基準	授業への参加度：５０％　実技テスト：３０％　学科テスト：２０％
教材教科書参考書	使用しない
留意点	原則として男子のみ受講可（但し、女子でも部活動経験等により男子と同等に運動できる自信のある人は受講可） ３学部合同で実施　定員：２４名　但し、定員を超えた場合は、男子を優先し、抽選とします。尚、科目登録の時点で受講者が１０名に満たない場合は開講しません。

科目名	人間関係論	科目コード	N15001	単位数 時　間	1単位 15時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基盤科学	選択	担当者名	則　包　和　也		授業形態	講義	単独	

授業の概要	本講義では“人間とは何か”という問い掛けについて、様々な視点から考えることを主題とする。そして、人間を包括的に理解する姿勢を持ち、知覚、感情、認知など人間の内面の動きについて学習し、他者との関係性の中でどのように機能しているのかについて、理解を深める。
到達目標	・多角的な視点で人間を考察し、自己理解と他者理解を深めることができる ・人間関係に影響を与える要因を考察することができる ・人間関係を構築する技術について学習し、看護に活かす視点をもつ

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	人間の特殊性1	人類の進化と人間関係（身体・精神・生活）	
第2回	人間の特殊性2	国家の形成と人間関係（身体・精神・生活）	
第3回	自分を知る：コラージュ	コラージュ作品の創作を通した自己分析	
第4回	人間関係を成立させる重要な要素	人間関係の構成要素	
第5回	人間関係に影響を与えるもの	関係性の認識	
第6回	ストレスと対処	ストレス研究の変遷と対処に関するアプローチ	
第7回	人間関係を構築する技術1	人間関係の技術、他者への伝達	
第8回	人間関係を構築する技術2	人間関係の技術、自分の認知を検証する	

評価方法及び評価基準	平常点評価60%、最終レポート40% 毎回、授業内容に沿ったテーマで小レポートの作成を求める。その内容、量、および、授業中の態度等を総合して平常点評価とする。最終レポートでは、各授業の内容を踏まえたうえで、教員が提示した形式に沿って自分の考えを記載しているかを評価する。
教材教科書参考書	使用しない
留意点	講義と演習によって行う。また、グループディスカッションを取り入れながら意見を発表する。

科目名	社会生活とマナー	科目コード	N15002	単位数 時　間	1単位 15時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	看護基礎科目	必修	担当者名	柳　澤　尚代　・　川　村　泰　子		授業形態	講義		複数

授業の概要	個人およびグループにおける社会意識の形成とコミュニケーション理論とスキルを学び、実践的な方法を習得する。
到達目標	1．社会生活を円滑に過ごすことができるよう、コミュニケーションに関する理論と実践方法を学ぶ。 2．グループダイナミックスを活用した、グループ活動についての理論と実践方法を学ぶ。 3．個人とグループを支援する際の、自らのコミュニケーションに関する特徴に気づくことを学ぶ。

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会意識とその形成	社会意識とその形成について、実際例を示しながら説明する。	柳澤
第2回	協調的問題解決とコミュニケーションスキルの理論と実際　（その1）	コミュニケーションスキルの理論を学ぶ。	柳澤
第3回	協調的問題解決とコミュニケーションスキルの理論と実際　（その2）	コミュニケーションスキルの理論を学ぶ。	柳澤
第4回	演習1：インタビューの方法（1）	演習により、インタビュー方法を実践的に学ぶ。	柳澤・川村
第5回	演習2：インタビューの方法（2）	演習により、インタビュー方法を実践的に学ぶ。	柳澤・川村
第6回	グループダイナミックスを活用したグループワークの理論と実際	グループダイナミックスの理論とグループワーク運営の方法を実践的に学ぶ。	柳澤
第7回	演習1：グループ運営の実際（1）	理論を用いて、グループワークの運営を実践的に学ぶ。	柳澤・川村
第8回	演習2：グループ運営の実際（2） まとめ	理論を用いて、グループワークの運営を実践的に学ぶ。	柳澤・川村

評価方法及び評価基準	1）2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2）リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3）定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。
教材 教科書 参考書	1)安梅勅江：グループインタビュー法～科学的根拠に基づく質的研究法の展開～、医歯薬出版株式会社 2)安梅勅江（編著）：グループインタビュー法Ⅱ／活用事例編～科学的根拠に基づく質的研究法の展開～、医歯薬出版株式会社　　授業の中で、随時、参考図書を紹介する。
留意点	1）授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2）授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。

科目名	情 報 処 理	科目コード	N15004 (2016年度入学生より適用)	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	4年	開講学期	後期
区分	看護基盤科目	選択	担当者名	三　上　聖　治			授業形態	演習	単独

授業の概要	ICTと呼ばれる情報と通信技術の活用は、社会生活になくてはならない時代になりました。その構成や操作方法を習得します。 文書作成、表計算、データベース、統計関数について、操作法、加工法を学びます。 看護の現場で必要となるデータの収集、入力、加工、保存から、統計手法を用いて、効率的、客観的な表現方法を習得します。
到達目標	1.コンピュータの構成と入出力装置について理解できる。 1.ファイルやフォルダの操作ができる。 1.アプリケーションソフトウェアについて操作、理解ができる。 1.ネットワークの構成や仕組みについて理解し、ネットワークエチケットを遵守できる。 1.データ処理ができる。 1.プレゼンテーションができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	情報処理とは	情報の概念と必要なデータの分別、加工について学びます。	
第2回	スタンドアローンコンピュータの構成と使い方	コンピュータの入出力装置について学びます。	
第3回	アクセサリの使い方　Ⅰ　エディタ	文字入力と保存、加工方法を学びます。	
第4回	アクセサリの使い方　Ⅱ　電卓、文字コード	ビットとバイト、１バイト系と２バイト系について学びます。	
第5回	ネットワークの構成と使い方　Ⅰ グローバルアドレスとDNS	グローバルアドレスとローカルアドレス、ドメインについて学びます。	
第6回	ネットワークの構成と使い方　Ⅱ WEBと電子メール	ネットワークの特徴と利点、欠点、エチケットを解説した後、WEBの検索方法、電子メールの送受信について学びます。	
第7回	ワードプロセッサ	エディタとワードプロセッサの違いについて解説した後、文書、画像の操作について学びます。	
第8回	表計算ソフトウェア　Ⅰ	セル、シート、ブックの扱い方を学びます。	
第9回	表計算ソフトウェア　Ⅱ	関数を使ったデータ加工について学びます。	
第10回	表計算ソフトウェア　Ⅲ	並べ替えや抽出、統計処理を学びます。	
第11回	表計算ソフトウェア　Ⅳ	可視化について学びます。	
第12回	データベース	データベースの構築、データの抽出、加工方法を学びます。	
第13回	プレゼンテーションソフトウェア	文字、図形、部品の、配置、画面の切り替えを使ったプレゼンテーションを作成します。	
第14回	プログラミング　Ⅰ	エディタを使って、HTMLでWEBページを作成します。	
第15回	プログラミング　Ⅱ	エディタを使って、HTMLやJavaScriptで、リンクを張ったWEBページを作成します。	

評価方法及び評価基準	授業時の応対、レポート提出、内容、試験の合算方式 授業の応対　20%　レポート　40%　試験　40%
教材 教科書 参考書	教科書は使いません。参考書：Office2016＆情報モラル　noa出版
留意点	レポートはファイルでネットワークを使っての提出となりますので、ファイル操作、ネットワーク操作の習得が必須です。

科目名	海外研修	科目コード	B53067	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1～4年	開講学期	通年
区分	専門教育科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス		授業形態	演習	クラス分け	

授業の概要	This course will prepare students for study abroad in the United States with programs sponsored by Hirosaki Gakuin University to North Central College, Shenandoah University, or any other study abroad program.	This course provides students with credit for participating in study abroad programs sponsored by Hirosaki Gakuin University to North Central College, Shenandoah University, or any other approved study abroad program.
到達目標	This course is a video-based preparation course that will prepare students for their experience abroad in the United States. Students will learn how to interact with Americans, deal with cultural differences during study abroad, and will understand the differences between Western and Japanese cultures.	This course documents credits transferred from Hirosaki Gakuin University-approved Study Abroad programs in the United States or other accredited English-speaking universities. Students must successfully complete a Hirosaki Gakuin University-sponsored study abroad program to receive credit for this course.

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	Course Orientation and teacher introduction	Instructor explains course objectives		第16回	The content for this course is based on the curriculum and syllabus of the study abroad university attended. Each program is unique and students must complete all parts of the program to receive credit.	
第2回	Greetings and Cultural Differences	Students will learn about the differences in Western and Japanese greetings and personal interactions.		第17回		
第3回	Sempai Presentation of SA programs	Students will hear from upperclassmen who have participated in SA programs to ask questions and hear personal opinions.		第18回		
第4回	Touring the House	Students will learn about the differences in Western and Japanese houses and what to expect in homestay		第19回		
第5回	At Dinner	Students will learn about Western eating and dinner manners and their differences with Japanese culture.		第20回		
第6回	Fitting into American	Students will learn how to adapt to life in a homestay situation and live with an American family.		第21回		
第7回	Communicating with home stay family	Students will learn communications strategies for a successful SA experience.		第22回		
第8回	Meeting and talking with people	Students will learn how to make friends and function in SA classrooms.	Cultural Notebook Draft	第23回		
第9回	At a party; Cultural Notebook Requirements	Students will learn about American university parties; the assignment of the Cultural Comparisson Notebook		第24回		
第10回	At a restaurant; Cultural notebook draft due	Students will learn about eating out in America; 1st drafts of cultural notebook pages are due.	Cultural Notebook Draft	第25回		
第11回	Trouble!	Students learn tips for dealing with emergencies and trouble		第26回		
第12回	Shopping	Students learn about shopping; 2nd Cultural notebook draft due	Cultural Notebook Draft	第27回		
第13回	Saying Goodbye	Students discuss saying goodbye to their host families		第28回		
第14回	Customs & Immigration	Students prepare for travel to America; learn Customs & Immigration Procedures		第29回		
第15回	Cultural Notebook Presentation	Students do a Cultural Notebook Presentation about Japanese culture	Cultural Notebook	第30回		

評価方法及び評価基準	Classroom and English Department cultural event participation: 50%; American and Japanese versions of the Cultural Notebook content and language use: 50%. Students will be graded on their English language skills and their understanding of cultural differences between America and Japan.	Successful completion of study abroad programs will be reported by the host university.
教材教科書参考書	American Homestay: Do’s and Don’ts Textbook [ISBN: 4-523-17360-5]	Textbooks will be determined by each study abroad program’s staff.
留意点	Students are required to purchase new books-no sempai books allowed. Attendance is required and absences should be kept to a minimum in order to keep up with the course.	Hirosaki Gakuin University students must compete 100% of study abroad program requirements unless given an exception by the host university due to special circumstances.